

県政について県民同士で意見交換!

なら県民電子会議室



奈良県知事
荒井正吾 殿

21年度下期「なら県民電子会議室」の報告書

～ 県政について県民同士での意見交換～

2010年度4月11日
NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ
理事長 奥家孝彦

【目次】

I. はじめに

II. 提言

III. 電子会議室の報告

T-1: 広げようボランティア・NPO・地域活動の輪
～ 多様な協働による地域づくりの推進～

コーディネーター: 早崎朝子

T-2: 林業の振興を考えよう
～ 森林の整備と保全について～

コーディネーター: 川口智史

T-3: ものづくり産業を考える
～ 奈良に興したいこんな産業～

コーディネーター: 馬場英彦

T-4: 奈良の未来を創る
～ 平城遷都1300年祭を成功させ、奈良の魅力を語る～

コーディネーター: 伏見 敦

IV. 広報活動、登録・投稿・アクセス集計

V. まとめ

【添付資料】

1. なら県民電子会議室の総括(骨子)
2. 21年度下期運営委員会委員
3. 21年度下期「なら県民電子会議室」
ポスター



平城宮跡第一次大極殿

1. はじめに

1. 目的

この電子会議室は、インターネットを活用して県民同士が県政について幅広く議論できる場を提供することにより、県民の県政に関する理解と関心を高めることを目的とする。

2. 電子会議室に期待するもの

～「なら県民電子会議室」を終えて～

「なら県民電子会議室」は、平成18年6月に、e AACが運営団体として、県から認定され、18年度上期にシステムの構築に関するアドバイスや、運用ルール等を決め、同年11月に奈良県の事業としてスタートした。以来3年半わたる電子会議室を運営して、平成22年3月末に終了した。振り返ってみると、その実績は、次の表のとおりである。

投稿件数は、4,967件で、目標の2.5倍であった。この電子会議室の目的は、「インターネットを活用して県民同士が県政について幅広く議論できる場を提供することにより、県民の県政に関する理解と関心を高めることであった。会議室のアクセス数、投稿件数から判断するに、この目的は十分に果たせたものと思う。

	21下	合計	目標値
トップページアクセス数	28,526	154,321	
会議室アクセス数	34602	184,043	
リクエスト成功件数	464173	1948799	
登録者数	27	340	500
投稿件数	913	4,967	2,000
県への提案	64	220	

「なら県民電子会議室」は、3年半の間に、24の電子会議室（テーマ）を開設してきた。広範囲で、あらゆる分野に言及でき、熱心に議論が行われ、奈良県の現状把握と県政への提案、また地域活動に貢献ができたものと思われる。電子会議室を通じて、生まれたものは、

- ・県政への関心を深める
- ・グループ活動の芽生え
- ・議論を深めて、多様性を認め合う

を得ることができた。自分の住んでいる地域を良くしたいという気持ちを育み、問題意識に目覚め、住民による新しい活動が芽生えてきた。全く知らなかった人同士が、自由に対話することにより、県民の県政に関する理解と関心を高め、県政に提案するだけでなく、議論を深めていくつかの地域活動が生まれている。地域の教育支援を目的にして生まれた団体や、「ものづくりを考える」の教室では、ビジネスチャンスを作り出す議論に発展している。

自治体のポータルサイト内に「電子会議・電子掲示板」を開設する自治体は多いが、成功している事例は限られている。成功しているところは、藤沢市のように市民が運営に参加しているところである。「なら県民電子会議室」は、市民参加型の電子会議室として、例のないユニークな取組形態であったと言える。電子会議室を成功させる鍵は、

県民の意見を県政へフィードバックする仕組み

電子会議室を円滑にする機能：「運営委員会」「コーディネーター」「事務局」の役割

テーマの県担当課の参加：テーマの県担当課からの行政情報の提供

県民の参加促進策：

ア。紙・電子媒体による広報活動

イ。行政情報提供の質・量、反応の速さ

ウ。地域活動団体の参画

協働型地域社会を形成するには、“コミュニケーションの場”が必要である。多くの人リアルタイムに関わることができるのは、ネットが最適である。文化や経験の異なる人が、自由に対話することにより気付くこともあり、多様性を認め合うことができる。多様な主体が、地域課題に

ついて協働するには、多様性を支える不断の努力が成功の鍵と言える。

電子化と縁遠かった人間同士の付き合い方も変わりつつある。職場や家庭における IT の意味合いは本質的に変わろうとしている。そして、社会の営みの様々な形式・規則・法律等の物理的制約を変化させ、こういう状況に耐えていくために、行政及び地域は、この“コミュニケーションの場”を、如何に有効活用するかが問われている。

電子会議室を終えるにあたり、多くの方々から、“継続すべし”の投稿やメールをいただいた。“奈良県を良くしたい、自分の住んでいる地域を良くしたい”という気持ちを大事にして、インターネットの時代に合った民意を汲み取る有効な手段として、検討に値する課題だといえる。行政だけに頼るのではなく、市民自ら積極的に参加して、よりよいまちづくりを実現していく。その過程で、市民の熱意が行政を動かすこともあるだろう。市民と行政が連携することにより、良い結果を生むこともあるだろう。準備期間も入れると4年にわたる実績とノウハウを生かしていくことを願う。

II . 提言

各電子会議室でまとめた「提案」の項目を提言として項目のみ下記する。詳しくは、後記する各電子会議室の報告をご参照いただきたい。

T - 1 : 広げようボランティア・NPO・地域活動の輪 ～多様な協働による地域づくりの推進～

(1) Community

商工会・商工会議所・中小企業支援中央会・観光協会・農業協同組合・森林組合・福祉協議会・教育委員会・自治連合会などの縦割りの関係ではなく、新たな協働関係のプロジェクト指向活動としての指導、育成を目指すこと。

高齢者や子育て世代などのパソコン技術をサポートすることで情報発信力を向上していく中、公民館等公共施設でのパソコン配置やインターネット接続環境環境整備の推進。

地域住民の情報共有の場（防災・防犯地図など）として自治会(又は連合会)のホームページ活用を広めること。

築いたノウハウを下に電子会議室のリニューアルを行い、県での活用の他、「協働推進指針」の周知徹底の一環として、住民により近い市町村での活用を進め、市民の活動結果や成果が把握できる(見せる化)仕組とし、市町村の経費負担軽減に貢献すること。

主婦及びシニアの情報発信力は、ブログなどのWEB上のコミュニティ広場の普及と、ワールドカフェ、フォーラムとも連携し、良き人脈形成と共に育まれる。場づくりとコーディネータの活用やパソコン及びインターネットを使いこなすスキルアップを支援すること。

(2) Communication

三田市と関西学院大学の協働連携（「三田お宝探検隊_関学チャンネル」：<http://www.city.sanda.lg.jp/>）のような、「見える」地域活性化事業企画を募集する等、若者と共に推進する積極的な取り組みを行うこと。

NPO に価値(就労者の生活費)が循環する風土(三方一両得)と仕組みづくりとしての基金の創設や寄付免税処置を早期に実現すること。

「多様で楽しいかわり」や「多様な組織を公共サービスの提供主体」の視点で、県民の自主的活動情報の総合広報窓口としてのマスコミへの働きかけや、「協働推進指針」の周知徹底に市町村、企業、学校、大学、その他公的団体の地道な研修会、啓発活動と、実情の傾聴を実施すること。

「公」の事業企画提案とその推進は地域を支える住民力を高め、良質なサービスが三方両得の価値の流れを生み、ソーシャルビジネス、コミュニティービジネスに結び付く。この

様な視点で、テーマ追求型の継続性のある協働関係を目指すこと。

自治会や地域活動において、今、個人情報保護法が障害となりコミュニティ形成に影響がでている実態に対し、個人情報の保護とプライバシーの保護との違いをわかりやすく示したガイドラインや条例等をつくるなどの対策をすすめること。

住民の要望、疑問などの相談に応じる総合窓口や、コールセンター、メール質問受け付けは住民にとって便利なもの。より充実させると共に、活用事例を示す等の「相談して良かった」PRを積極的に行うこと。

T - 2 : 林業の振興を考えよう

～ 森林の整備と保全について～

- (1) 木造建築について
- (2) 森林の管理について
- (3) 林業への支援
- (4) 林道や作業道への提案
- (5) 鳥獣害対策について
- (6) 里山整備について
- (7) 森林の公益的機能への期待



T - 3 : ものづくり産業を考える

～ 奈良に興したいこんな産業～

(1) 人材の育成

県政の実現すべき課題「県外で働き、消費する」から県内で「暮らし、働く」への提言

多様な働く場づくり：ソーシャルファーム

多様な働き方：協働労働

社会起業家の育成・創出

ソーシャルビジネス/コミュニティビジネス創出への取り組み

SB/CB から始まる新たなビジネスづくりをするネットワークづくり、人づくりの必要性

奈良県のインキュベーション施策

活動から事業へ

「世間よし、相手よし、われよし」松下幸之助の経営道・商人道の原点

企業風土や企業文化作りこそを、経営計画の根幹にすえる。

ものづくり技術の継承への挑戦

(2) 事業や技術

「一店逸品運動」のすすめ

事業承継・技術の伝承への取り組み

奈良の未来への産業を 金 物・資源 時間と言う軸で切って考える

多様な技術の維持、活用、発展を見えるようにし、他社技術との融合による新たな価値を生み出す

ホームページ内容の充実を図り、企業間の取引促進を図る

ユーザーの立場で「ものごと」を組み立てる基本姿勢の下に諸施策を計画し実行する

観光という資源の経済効果を数値化し県民のやる気を引き出す

農産物の直販所の整備と提案型販売で今後需要を伸ばす

1.5次産業プロジェクト大和高原気候にふさわしい農産物を、目標を定め、プロジェクトを結成

近隣他府県の企業との連携も視野にコンカレントエンジニアリング発想で商品開発と流通を実現

産業活性化プロジェクト・「長期計画の下、構造改革が必要」

新産業創出プロジェクト・・・観光の多様化・次世代医療産業集積プロジェクト・ウエブデザイン村・動画コンテンツ発信、三方良しのCB・SBなどのビジネスモデルを創出

(3) 情報・ソフト・ノウハウ

顧客の心理を勉強しよう。

「発明協会」「奈良アイデアクラブ」などの活動との連携で新製品の開発を。

商店街の活性化。「商店街観光ガイドツアー」の実施。「体験型観光」からお土産等物産品の検討を。

ワールドカフェなどの対話で地域活性化を。

モノを売る手段としてネットショップの活用。

IT活用、特に動画を活用で引き合い増加を図る。

奈良県立図書情報館にあるデジタルスタジオをもっと活用しよう。

伝統工芸の全国大会を企画主催して意識高揚と課題解決への道を探る。

個人の匠を支援するシステムが出来ないか。

遷都祭に向けて、「奈良まちおこし結び会実行委員会」が奈良の伝統を未来産業へ発信。

スカイプ導入や、ビジネスマッチングブログの活用

県花「奈良八重桜」をブランド化して展開する。

T - 4 : 奈良の未来を創る

～平城遷都 1300 年祭を成功させ、奈良の魅力を語る～

(1) 県が発行するガイドブックに対する提案

会期終了後何が残されて何が撤去されるのかもガイドブックにはっきり書いた方がよい。

最近奈良に住む外国人が多く見られます。また、観光する外国人も多様です。

言語のガイドブックを作成する必要あり。

県内各地で、伝統的に行われている各種行事を集約し、わかりやすいガイドブックを作る必要がある。

(2) 平城宮跡内のあちこちに簡易型の建物が建てられています。終了後は、休憩所として1部残すことを提案します。

(3) 仮称「関西広域連合」に参加した方がよい。他府県と積極的な協力関係の中から展望が開けるはず

(4) 住民に奈良を愛し理解するための広報活動を計画実施する。

(5) 住民がオーナーであるような意識を持ってもらうためのイベントを企画実施。

(6) 交通マナーなどを教育する場面を警察などを中心として自治会組織等にも幅広く実施する。



平城宮跡 桜

III. 電子会議室の報告

T - 1 : 広げようボランティア・NPO・地域活動の輪

～多様な協働による地域づくりの推進

コーディネーター：(正)早崎 朝子

(副)中尾 理夏子 / (副)渡辺 孝

1. はじめに

1-1 背景の整理

H21 年度通期のテーマ「ものづくり産業を考える」と「ボランティア・NPO」とは無縁ではない。どちらかと言えば、ボランティア・NPO 的な考え方(理念・使命観)が人の心理の底辺部分にあって、特に利潤再生産を迫及したのが「ものづくり産業」と考えられる。逆に言えば、ボランティア・NPO 的な意識が低いと優れた事業家が育たない、企業が成長しないとも言えるのではないが、これが、上期までの「ものづくり産業を考える」の結論の一つでもあった。

資源消費形の産業構造だけでは無く、多様な価値に目を向ける必要性が地球環境保全・コミュニティー復興という観点で見直され始めていることは確かで、本質的な価値の循環を生み出すにはどうすべきかを議論し、認識を深めることが重要である。この為にも、両会議室が関係しあい、産業界、地域社会、NPO、ボランティアとの良き連携を生み出す具体案を考えた。

一方、経済構造・人口構成の変化に伴い地方分権が言われるが、これは住民生活に身近な公共事業を進める住民要望の表れと理解すべきものである。その基盤として、情報化社会、高学歴社会にあって地域社会の課題に対する市民の意識(思いが実現していない)の高まりがある。

特に、行政事業の効率運営と透明性が問われる中で、旧来の縦割り構造組織の行政組織や住民組織から課題思考型(思い実現型)の人と人のつながり、情報公開、商取引などの動きがI.C.T.の世界の中で現実のものとなってきている。その利便性と有効性を多くの人々が実感しつつあること、地方分権の最終的な担い手は結局市民であることから、「官の請負」の誤解を解き、正しい「公」を再認識する一歩として、この会議室のテーマが設定されたとも考えている。

全国

- ・ 総務省「コミュニティ委員会」・「新しいコミュニティのあり方に関する研究会」
- ・ 総務省自治大学校や各大学での地域コミュニティの発展や再生の研究
- ・ 日本 NPO 学会での民間非営利活動に関する研究および活動成果の発表と交流、教育の普及
- ・ 全国各地の NPO センターでの NPO 支援と協働事業実践

県下

- ・ NPO 等と行政の交流セミナー
- ・ 奈良県協働推進円卓会議
- ・ ボランティア・NPO の活動及び協働の実態調査(H21.7月~12月)
- ・ 自治会の活動及び協働の実態調査(同上)
- ・ 奈良県協働推進指針(H22年2月パブリックコメント募集)

電子会議スタートにおける、協働推進課のプレゼンと意見交換

- ・ 奈良府民と旧奈良住民という構図
- ・ 県民のボランティア参画意識は白紙状態(良くも悪くも無く、重要とも不要とも思わない)
- ・ 参加意識は 35 才~75 才で高いが若年層や高齢層で低い釣鐘型
- ・ 社会で支える、自治体や企業も巻き込む 3 つの指針で企画段階からの参画
- ・ 地縁団体が弱っている
- ・ 熱い思い、新しい公、心のケアの視点

- ・ 周りを巻き込む求心力が NPO の役割
- ・ ボランティアと NPO は分けて考えるべきもの
- ・ 米国と日本ではボランティアに対する考え方が逆
- ・ 基金を考えている（県）
- ・ 自治会は任意団体扱い

これらの動きや資料から地域社会の背景的な課題と提言及び推進策が過去から検討されていることが知れるし、既に県内 NPO センターや社会福祉協議会が中心となって活動している状況でもある。「奈良県協働推進指針」はこれらを凝縮したものとなっている。

このような状況で、なぜ、あえて県民電子会議で「多様な協働による地域づくりの推進」を問うのか、それは、当事者が思う程には一般市民の多くは「認識していない」とう現実とのギャップを感じることで、併せて、H21年度（県）協働事業としてのWEB版スマイルズのNPO活動取材を通して活発な市民たちから見えたことは、「熱い思いにじっとしてはられない」事業家のような姿である。今必要なことは、さらなる傾聴と広報、芽生えた芽を枯らせない環境を整えることである。

- ・ 環境が冷たければ、覆いが要る（支援育成）
- ・ 環境が十分なら、太陽と肥料は廻る（リソースの循環）

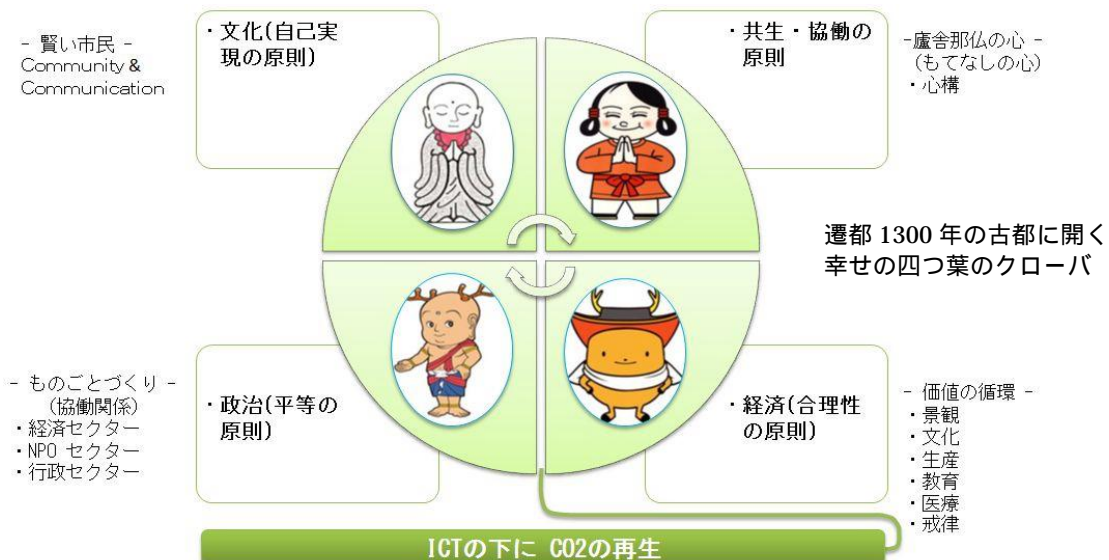
1 -2 会議室運営方針

以上の背景を基に、会議運営の方針として、以下の構想設定とした。

『一面的な価値を追及するのではなく、多様な価値感の下に、皆が共生する世界を築くには、今のどのような状況で、どのような方向に向かおうとしているのか、一人一人が、どのような価値感を抱き、いかなる社会的仕組みを創るのが好ましいのか、そのような視点で、遷都 1300 年を迎えるに相応しいテーマとしますので、多くの皆様の議論ご参加をお待ちしています。』

ねらいは「NPOの人材供給源と持続性(価値創造と価値循環～資金循環)を高める仕組み」とは何か、県民意識としてどうなのかを探り、今後の政策反映材料への一助とすることとし、具体的な理想像と課題設定を以下とした。

= Community と Communication の再生(CO2 の再生) ～ 社会(定住自立圏)に生きる =
ICT で結ぶ「せんとくん」「まんとかん」「な～むくん」「お地藏さん」が活き活き輝く世界へ



Communityは社会の「器」 ~安全、安心、共生の優しいまちづくり

- A-1 安心して暮らせる福祉のまちづくり(安心の仕組みづくり) ~その想いと課題
- A-2 地域の自主防災に向けた取り組み(安全の仕組みづくり) ~その想いと課題
- A-3 障害のある人の地域生活支援(共生の仕組みづくり) ~その想いと課題
- A-4 景観や環境保全のまちづくり(自然との共生の仕組みづくり) ~その想いと課題

Communicationは社会に「生きる」こと ~世代を超えた参画と共に高めあうまちづくり

- B-1 若い世代、働く世代とともに活動するには
- B-2 地域の伝統文化、文化財の保存と活用
- B-3 人材(スキルとマインド)づくり
- B-4 行政や企業等との継続的協働と価値の循環
- B-5 ソーシャルビジネスの必要性と可能性

これらの個々のテーマはそれぞれに重みがあるので、以下の概念で包含することとした。

・あなたの思う「ボランティア」、NPO、「協働」とは(理解度)

県民のボランティア参画意識は白紙状態(良くも悪くも無く、重要とも不要とも思わない)とか、米国と日本ではボランティアに対する考え方が逆(文化風土)で日本は大変低調とか、地縁団体(自治会など)が弱っているなどの話を聞きく。そもそも、ボランティア、NPOとは何か、どのような社会的な意味や意義があるものなのか、どうして協働とかの言葉があるものか、もっと根本的には、あなたにも、私にも大切なことなのか、面白く、楽しいことなのか、全く関わりたく思わないことなのか、この辺りの意見を募った。

・私(達)のボランティア・NPO 活動を紹介します(実態)

すでに様々な活動をされている方々の活動内容の紹介として、このような想いを抱いて、このような活動していて、こんな辛いこと、大変なことがあるけど、多くの人々の理解や援助に支えられて、こんな素晴らしい活動ができて、結果として、このように感じているなど、要望や宣伝も含め投稿願ひ、議論と活動の輪が広がることを期待した。

1-3 まとめ

「経営に王道は無い」と言われるように、「多様な協働による地域づくりの推進」にも王道は無い。背景の中でも見たように、この思いについての研究や議論は過去から延々と続いている。一言で言えば、パラダイムの変化を受け止め、地道に自己改革を行うことが大原則といえる。これに「気付かせる仕組み」としての公聴(傾聴)と広報、「フットワークの軽さ」としての「新たな公」に基軸を移した協働の拡大と推進となる。過去には時空の制約を受けた壁も、ビックバンを起こしたともいわれる ICTを道具として、CO2の再生は可能と見るべきで、「成せば成る成さねばならぬ何事も 成らぬは人の成さぬなりけり」のとおり、県民目線で責任と継続性及び透明感のある事業遂行を行うことに尽きる。

2. 提案

「広げようボランティア・NPO・地域活動の輪(多様な協働による地域づくりの推進)」を実現する基盤は、市民力(モチベーションと行動力)の向上にある。これには、情報の共有と意見反映の場及び結果と成果が見えるようにすることが甚だ重要である。

地域を支える最終的な組織として自治会を含めた地域の諸団体が担うことを思うと、フラット組織化された「地域共同体」のようなプラットフォームの下に、地域の安全・安心・快適な生活を創り、守る事業活動を促進する支援(広報・フォーラム・資金や人的支援)をすべきである。

2 -1 Community

- (1) 商工会・商工会議所・中小企業支援中央会・観光協会・農業協同組合・森林組合・福祉協議会・教育委員会・自治連合会などの縦割りの関係ではなく、旧来の組織に拘らない、新たな関係も重視した協働関係のプロジェクト指向活動としての指導、育成を目指すこと。
(91・108・149)
- (2) インターネット環境の整備として、高齢者や子育て中の若い世代などのパソコン技術をサポートすることで情報発信力を向上していくという提案もある中、奈良県内では、公民館等公共施設でのパソコン配置やインターネットが接続できる環境が未整備であるという声が多く、環境整備の推進を期待する。
(コーディネータ会議)
- (3) 何時でも、何処でもコミュニケーションの場、地域住民の情報共有の場(防災・防犯地図など)として自治会(又は連合会)のホームページ活用を広めること。標準ホームページを準備して市町村のサーバーを開放している例が見られる。
(104・134)
- (4) 築いたノウハウを下に電子会議室のリニューアルを行い、県での活用の他、「協働推進指針」の周知徹底の一環として、住民により近いところで(市町村)の活用を進めること。市民の活動結果や成果が把握できる(見せる化)仕組とすることで、住民のモチベーションが高まる。その仕組みとしてクラウド環境(1)の活用を視野に市町村の経費負担を軽減すること。
(55・72・105・120・131)
- (5) 地域活動の主体となる主婦およびシニアに情報発信力は、ブログなどのWEB上のコミュニティ広場の普及と、ワールドカフェ、フォーラムとも連携し(2)、良き人脈形成と共に育まれる。そのためには、場づくりとコーディネータの活用やパソコン及びインターネットを使いこなすスキルアップを支援すること。
(25・97・109・117・157・159・165)

2 -2 Communication

- (1) 若者達が社会経験から得る気付きの効果は大きい。三田市と関西学院大学の協働連携(「三田お宝探検隊_関学チャンネル」:<http://www.city.sanda.lg.jp/>)のような、「見える」地域活性化事業企画を募集する等、若者と共に推進する積極的な取り組みを行うこと。
(126・131)
- (2) NPOに価値(就労者の生活費)が循環する風土(三方一両得)と仕組みづくりとしての基金の創設や寄付免税処置を早期に実現すること。
(92・118)
- (3) ボランティアとNPO(法人)の違いとこれらに深い理解を持っている人が未だ少ない実態が見える。無理しない「多様で楽しいかわり」や「多様な組織を公共サービスの提供主体としてとらえること」の視点で、県民の自主的活動情報の総合広報窓口としてのマスコミへの働きかけや、「協働推進指針」の周知徹底に市町村、企業、学校、大学、その他公的団体の現場に足を運んで地道な研修会、啓発活動と、実情の傾聴を実施すること。
(53・64・78・84・128・136)
- (4) 「公」の事業企画提案とその推進はNPO自身の管理能力と実行能力を高める(信用と存在感を高める)。これは地域を支える住民力を高め、良質なサービスが三方両得の価値の流れを生み、ソーシャルビジネス、コミュニティービジネスに結び付く。この様な視点で、テーマ追求型の継続性のある協働関係を目指すこと。
(47・54)

- (5) 地域の見守りや災害時の要援護者の把握など、自治会や地域活動において、今、個人情報保護法が障害となりコミュニティ形成に影響がでている実態に対し、個人情報の保護とプライバシーの保護との違いをわかりやすく示したガイドラインや条例等をつくるなどの対策をすすめること。
(9・11)
- (6) 住民の要望、疑問を窓口一か所で全て相談に応じる総合窓口や、コールセンター、メール質問受け付けは住民にとって便利なもの。しかし、その活用方法を知らない人達も多い。より充実させると共に、活用事例を示す等の「相談して良かった」PRを積極的に行うこと。
(112・136)
 - 1 ネットワーク上に存在するサーバが提供するサービスを、それらのサーバ群を意識することなしに利用できるというコンピューティング形態を表す概念で、リソースの占有ではなく、多くのユーザーが共用する使い方。
 - 2 時間と空間に囚われないインターネット上の会話（何時でもどこでも）のメリットと、カフェやフォーラムのような対人関係でのメリット（空気感が分かる、人脈が出来る）を足し合わせること。

3. 発言の概要

3-1 参加者数

- (1) 参加者 16名
- (2) 発言数 165

3-2 発言要点

- (1) あなたの思う「ボランティア」「NPO」「協働」とは？
- (2) 私（達）のボランティア・NPO活動を紹介します。
- (3) 活動の推進に必要なもの
- (4) インターネットを活用した地域づくり
- (5) なら県民電子会議室の運営について
- (6) 「協働」について
- (7) 自治会活動について
- (8) 障害者の就労支援
- (9) 行政に対して



第19回運営委員会

3-2-1 あなたの思う「ボランティア」「NPO」「協働」とは？

【84】「これからの新しい地域社会の姿」「みんなに役立つ自己実現の姿」「企業や家族とは違うささやかな繋がりだけれども多様で楽しいかわり」が目指す所じゃないかと思います。
「これからの新しい地域社会の姿」は行政も企業もカバーできない領域がますます広がっていく中で、地域の社会人、主婦、学生、子供、老人がいっしょになって何かをいっしょに行う。自分だけのエゴを捨てて、他人を批判せずに、その中には新しい出会いと新しい価値を見つけ出す。「ささやかな繋がりだけれども多様で楽しいかわり」の中で「ボランティア」「NPO」「協働」という事を実践していけばお金だけでは実現できない、いままでとは違った多様で暖かい社会が実現できると思っています。 《協働精神の本質》

3-2-2 私（達）のボランティア・NPO活動を紹介します

- 【4】 大和の国・菜の花エコプロジェクト 『菜の花を食べよう』
- 【92】 カレンダーのチャリティー販売 《三方一両得の例》
- 【134】 自主防災の一環で（防災防犯地図）を作り自治連合会の各自治会へ配る様相談を受けてお

りますが具体的な構想が決まらず、去年の春から固まったままです。
【157】なら NPO カフェ 等

3 - 2 - 3 活動の推進に必要なもの

- 【20】一人の力では限界があります。「広めていくことが大切」
組織的に活動する仕組みとして NPO に期待。
- 【47】継続的な活動には、まずこのように事業に情熱を傾ける人が必要です。その理念と行動が
協力者を集め、継続性が出て来ます。次にお金、「経営力」。
- 【54】NPO活動を活性化させることで人が動き、消費が動き経済が活性化され、雇用を生み出
す・・・そのような環境づくり＝「ものづくり産業」を支えるビジネススキルとボランテ
ィア精神を統合したソーシャルビジネスが大切です。
- 【118】「地域活動」にも企業活動にも、三方両得の仕組みが有効
- 【165】NPOが社会を変革するための役割を担っていくためにも、市民を巻き込み、社会におけ
る問題を自らのことと引き寄せて考えていくこと、また社会に目を向けることが大切。

活動に対する評価も、ボランティア活動推進には不可欠な機能であるという意見がありました。

- 【25】行事の後の懇親会などで煽てられたら元気が出ます
- 【126】子ども達が録音した火災予防のおかげで小学校区の去年一年間で大きな火災は無く、小さ
なばや程度の火災出動が2回で済んだことを報告すると喜んでおりました。
- 【131】活動の中のちょっとした事を地域の子供達に手伝ってもらい、その成果を大きく「みん
なのおかげ」と報告することは、みんなで関わる＝協働の取り組みを進める場合にも、と
ても大切なことだと思います。
- 【151】安全リーダー（消防団員）を3年勤めたら、市町村の役所から一泊旅行券と感謝状を差し
上げるとか、防災神社の壁に名前を永久表示するとか、そんな感謝のしようもあっても
良さそうです。私の父は地区の消防団名で記念品を貰っていました。

参加者が増えないという課題を抱えている団体は多く、広報についても意見が多くありました。

- 【78】広報の方法として、以下の4事例を提案
 - 1) WEB サイト「奈良ボランティアネット」での情報発信
 - 2) 地域のボランティアセンターへチラシ掲示
 - 3) 大学へ呼びかけ（若者への呼びかけ方法）
 - 4) 新聞の掲載無料コーナー活用、自治会等の回覧板
- 【82】里山保全活動にうまく子どもを呼び込む仕掛けをつくった団体の事例紹介
- 【44】参加したいと思っても、きっかけがないという人も多いのではないかと。自分たちの活動を
するだけでなく参加を呼びかける役割の存在が大切。
- 【128】メディアを通じて地域の活動事例広報は「価値の循環を生む仕組み」として大変有効。

3 - 2 - 4 インターネットを活用した地域づくり

- 【104】自治会の掲示板として、意見受付の場としてホームページを活用しようという動きがある。
- 【109】家事や育児など忙しい中で時間を見つけて NPO 活動に参加している方々にも、手短なとこ
ろで、気軽にパソコンの研修できるような支援が必要。
- 【117】地域活動の主体となる主婦およびシニアに情報発信力をつけてもらい、ブログなどの WEB
上のコミュニティ広場が普及するとよいのでは、と思います。そのためには、パソコンや
インターネットを使いこなすことが必要ですね。
- 【119】若者対象にするならHPも携帯サイトを作っておいた方がよいときく。
働きながら子育て中のお母さんたちは、メールをするのも子どもを寝かしつけた夜遅く

- しか時間がとれないなど、様々な生活環境に対しても、インターネットは対応できる。
- 【97】シニア層の IT アレルギーや無関心の人達への対応として、
- ・コンテンツの作り方と見せ方に工夫が必要
 - ・ガイドラインの整備
 - ・楽しさ、便利さの啓蒙
 - ・ユーザーの近くで講座開設
 - ・安全・安心・楽しさ・便利につながるコンテンツ開発
- 地域の商店街、商工会、診療所、市町村役場、自治会、学校、NPO などが情報共有できるポータルサイトと共にしっかりとした理念を持ったコーディネータによる運用(民間)このような切り口を3方得となる仕組みとして考えることにある。

3 - 2 - 5 なら県民電子会議室の運営について

- 【105】電子会議室の活用に対する課題
- (1) 操作性と閲覧性の改善
 - (2) 事前登録認定性の廃止(不適切なものは管理者が削除)
 - (3) 各会議室のコーディネータと常任委員を決める
 - (4) 有償活動～収益源を模索
 - (5) 各団体のホームページともリンクさせ、自治会・NPO・商店・企業(地域貢献活動)
 - ・学校・行政など地域共同体相互のコミュニケーションの場に昇華させる。
 - ・ポータルサイトの設置(ハード)～奈良県
 - ・運営主体(ソフト)～市町村
- 【120】この県民会議室に新たに「フリートーク」の部屋を設けると、自然発生的に生活に密着したテーマの会議室がいくつか出来てくるのではないのでしょうか。
- 【122】自治会や、もう少し広域グループのHPの中に、会話を書き込み出来る電子会議室と、その内容が少しまとまってきたら、関係者の意見を聴く、意見交換をする等の「リアルな場」を設ける等の動きに結びつくことを目指したい。
- 【130】一般的な掲示板は、承認なしに誰でも書き込みができるため、不正な書き込みに対する管理が大変だという印象があるが、この電子会議室のシステム(「登録」「書き込み毎の承認」等)を他の自治会や公共のホームページでも運用することができるようになれば、インターネットを「地域での気楽な会話の場」として活用することも可能。
- 【159】リアルな空間で「意気に感じる」こと「バーチャル空間」で議論し構想を育むこと、この両輪を仕組みとして位置づけはじめた、「ものづくり会議室」の姿は、奈良県が生んだ先進的な地域活性化事例として評価するに値するのではないのでしょうか。
- 同様に、ボランティア、NPO 活動の輪を広げるには、マインド形成(モチベーション)がその一歩で、いつでも誰でも気楽に議論できる場として、電子会議室が効果的。
- 今後としては twitter のような気楽さと、参加メンバーの誘導策、コーディネータの役割とこれを支える経済的な支援の基盤を確固たるものにすることでしよう。

3 - 2 - 6 「協働」について

- 【31】協働を進める上では、「協働コーディネータ」機能が必要であり、誰がこの任務を負うのが大事。
- 【53】昨今は安易な「協働」が語られている気がします。社会サービスをきちんと仕分けして、どのセクターが実施するのがいいのかが検討され一番必要なところが担う、そのような分権という考え方があってはじめて成立する。何でもかんでも民間委託というのも違う。行政が担うべき領域を明らかにしておくことも大切ではないのでしょうか？
- 【53】協働にはお互いの対等性がきちんと保障される必要があるのではないかと。下請けではなく、互いに政策事業を遂行するパートナーであり、契約関係であるということ。
- そのためには協働契約書の見直しが必要で、必要です。
- これをそれぞれの団体が行えるのか、もしかしたら共同窓口を置くような仕組みのほうがいいのか・・・NPO のネットワークで検討できればいいのですが。
- 【64】地縁組織、NPO が現場目線で課題を発掘し活動を始め、その支援としての法整備と運営主

体を明確にすることが行政の仕事。その一環に「協働推進指針」、「協働マニュアル」づくりがあり、地域活動リーダー、コーディネータに要求される包括的知識のガイドラインとなるものと思います。

【136】NPO が考えた企画に、行政が広報面で協力して下さることで、市民に広く伝えることができ、一つのテーマに対して、たくさんの方々と一緒に考える機会を作ることができたということは、まさに協働なのではないか...とうれしく、私たちもやりがいを感じることができます。些細なことなのですが、このやりがいが、実は地域の活性化にもつながっていくようにも思います。

企画の達成そのものだけでなく、その準備段階の人と人との出会いや触れあいに、地域づくりの根があるのではないのでしょうか。

【149】奈良県の協働推進指針案にあるように、生活課題の把握やその解決に向けた取り組みを共有するための「プラットフォーム」づくりと、コーディネータを中心とした具体的な事業計画立案と事業成果の検証を行う協働推進委員会(地縁組織・市民団体・企業・行政等で構成)のような実行組織が求められると思う。

3 - 2 - 7 自治会活動について

【7】「自治会」への加入率が大変低い自治会があるようだ。私のところの自治会も大変不活発で、要らないのではないかとさえ思えてくる。役員が持ち回りで回ってくるとか、必要性を感じ無ような市役所の手伝いをしたりで、住民の役に立っていないと感じられる点があげられる。

【8】地域でのつながりも深まり、あらゆる場面で助けてくれる仲間ができる。

【16】自治会は、地域を代表する公的な存在として必要

【108】若い世代の自治会活動への参加促進を図り、子ども向けのレクリエーションを企画すると、老人会から無駄な遊びに経費を使うなど反発を受ける。町民同士が、コミュニケーションを図って、お互いを理解するところから「輪」ができると思うので、子ども向けの企画も自治会活動として決して無駄ではない。発想の転換が必要な時代。これまでの前例にばかりとらわれなくて、違う視点に立って物事を見る勇気が必要。

3 - 2 - 8 障害者の就労支援

【91】授産品には、一般商品と比べて遜色ないものが多いが、広報不足が指摘される。「あちこちバラバラ」ではなく、ポータルサイトの運用が望まれる。

ビジネス界の思考をそのまま福祉の世界へコピーすると馴染まない、そこに工夫が必要なので、福祉系のネットワークを活発にさせること、その中に異質な世界の人達にも参加してもらって、この中から新たな動きが芽生える。

3 - 2 - 9 行政に対して

・個人情報保護

【9】自治会活動や地域活動について【個人情報保護】が障害になっている。会員名簿や緊急連絡網ですら作成するのを躊躇うような有様。新聞記事で、大阪府の箕面市が、市で事前に認証することで、個人情報保護の規制にかからないような条例化を検討するというトピックがあったが、奈良でも可能ならば、条例化に取り組んでいただきたい。

【11】個人情報保護の本質を理解して行き過ぎはななくさないコミュニティは成り立たない。行政として分かりやすいガイドラインを作ってホームページにでも掲載してはどうか。

【112】災害福祉マップづくりから始まる地域の顔の見える関係づくり～作り方は地域の社会福祉協議会へ

・事業仕分け

【55】国でも実施され、市でも実施されている「事業仕分け」、是非市民感覚を取り入れるためにも県でも実施していただきたいと思います。

・情報公開

【55】一部の自治体が実施している【予算編成の公開】も実施していただきたいです。事業ごとの予算金額が分からないので、ヒアリングの段階から公開すれば、市民感覚が取り入れやすくなると思うのです。

・活動費の助成について（県協働推進課の「地域貢献活動助成事業」に対して）

【49】地縁団体（地域団体）NPOに係らず、行政が住民サービスとして行う事業を住民が代わりに行うのですから、本来行政職員あるいは業者に支払われる費用を活動する市民に還元することは良いことだと考えます。

【51】1、地縁団体以外へのNPOは、政治や宗教活動への支援に繋がりにくい。

2、本来、協働とは主体的な団体同士が補完し合うものであり、公金の支出、特に継続的な支出は「行政の下請け化」になる。

これに対して

【72】ボランティア団体と云うひとくくりにせず、その活動の中身をキチンと審査して、活動内容に支出して、活動している人の顔に支出をしない、と云う定義をつくらないといけぬ。

4. 終わりに

「ボランティア」「NPO」「協働」とは何かと、概念だけを取り上げて話をするには、対象範囲が広く、分野毎、ケース毎に、多様な解釈・判断が必要なテーマであったため、会議室参加者の活動事例毎に、多様なテーマでの話し合いをすることができた。

「協働」という言葉が、参加者によって『ささやかなつながりだけでも多様で楽しいかわり』と言い換えられたとき、県政を市民目線で発言できるこの会議室の素晴らしさを感じた。

なら県民電子会議室という場の活用についても多くの意見があった。今回の場合は、今期で終了となるが、今後もこのような意見交換の場が、自治体等ホームページのなかから出てくるのが期待される。

『奈良県には、「奈良県協働推進指針」作りだけではなく、そのあとのフォローを是非ともお願いしたい。特に、NPOの活動は地域に根ざした市町村単位での活動が多く、市町村の職員の勉強会を積極的に実施するなどが必要だ』とのNPO法人からの意見を頂いた。

また、「奈良県協働推進指針（素案）」に対するパブリックコメント募集に対し、電子会議の場では意見が皆無であったが、電子会議の思いを汲み取った意見として2月11日に提出し、指針に一部反映されたことは電子会議室の中間成果と考える。

最後に、半年間という期間があつという間にすぎ、会議室参加者がそれぞれ日常どのような活動をされているのかが理解し始めた頃に、貴重な意見を沢山いただいたまま会議室が終了してしまうことを残念に思う。それぞれの立場、活動体験に基づいた情報が、多様な分野においても有効な情報となるのがこの会議室の場で明らかになった。

今後も県民同士のつながりを感じながら、それぞれの分野でのご活躍を期待するとともに、会議室の運営にご協力いただいたすべての方に感謝を申し上げたい。

T - 2 : 林業の振興を考えよう

～ 森林の整備と保全について～

コーディネーター：(正)川口智史

(副)石橋崇宏 / 副)木村新一

1 はじめに

テーマの背景

今、地球環境の保全に関わって森林に対する期待がますます高まっております。

鳩山総理は9月22日の国連気候変動サミットの開会式で温室効果ガスの削減目標を1990

年比で25%減にすることを国際的に公約しました。森林吸収源対策として森林整備をすすめるのがますます大切になっています。本県はわが国でも有数の吉野林業地域を擁する林業県ですが、森林の整備を担ってきた林業は全く元気がありません。林業担い手の減少と高齢化、長引く木材価格の低迷、ニホンジカ食害等問題点を挙げれば数多くあります。どうしたら林業が元気になるのか、林業が元気になると山村も元気になります。本県林業の振興に向けて、前向きで活発なご意見や議論が展開されることを期待してテーマを設定いたしました。

2 提案

- (1) 木造建築について
- (2) 森林の管理について
- (3) 林業への支援
- (4) 林道や作業道への提案
- (5) 鳥獣害対策について
- (6) 里山整備について
- (7) 森林の公益的機能への期待



第20回運営委員会

3 発言の概略

(1) 木造建築について

【5】国産建築木材の需要が低迷して久しい。生活様式の洋風化に伴い、和洋折衷住宅が増加している状況の中で、安い外材に押されて国産材の需要は益々困難になっている現状です。国産木材の需要増加には、和風住宅建築に国産材を多く使用してもらうしか外に、方法はないと考えます。

【9】国産材の使用を復旧させるには和風建築ではなく木造建築です。

【12】吉野の林業を振興さす為には最終的に和風住宅を建てて吉野木材を多く使ってもらおう事だろうと思います。

【13】木造住宅の構造規準は厳しくなる方向に決まっていますその方向に来年度以降もなります。

【4】建築基準法を司る国交省に国産材で建てている大工、工務店さんを優遇してもらうことが吉野林業の復権につながると思います。

【34】建築基準法の大幅改正、瑕疵担保履行法に基づく担保期間の延長と住宅建設に関わる条件は一層厳しくなります。木材は自然物であると言った甘え許されそうもありません。木材も工業製品材料と同じように、乾燥し狂いの少ない、強度の明確な、寸法の正確な材料であるべきです。建築士が設計に必要な資料を提供できないと、木造住宅の増加は困難です。

【35】これからは努力しない建築士は淘汰されかねませんね。

総括して、

木材の利用、特に奈良県産材の利用については、木材産業振興には不可欠のことです。特に、木造住宅建築の着工戸数が伸びることが、何よりであることはいまでもありません。投稿でも、木造住宅に期待する意見が多く寄せられています。一方、建築基準法の改正に伴い木造建築についても、より厳格な設計・施工が求められていることについても意見が出されました。一般投稿者と建築設計専門家との議論も展開しましたが、具体的な提案に至らなかったことが残念です。特に、木材産業関係者からの意見がなく、議論を深めることが出来ませんでした。この会議室のような、一般ユーザーからの意見を聞ける場に関係者はもっと注目していただきたかったと思います。

(2) 森林の管理について

【129】そこで提案ですが、野放しの農地や林野は、農地や林野としての役目を果たしていない訳

ですから、農地や林野の看板を外して、宅地又は準工業地域並みの固定資産税を課税できないのでしょうか。野放しや荒地を作れば損をするシステムを構築できれば、農業・林業の振興に役立つのではないのでしょうか？

【131】森林所有者が森林管理できない場合は、森林林管理受託制度、信託制度を強化し、強制力のある、森林所有者に代わって森林管理する新たな制度を作っても良いのかなと思います。

総括して

森林の管理についてもいくつか意見が出されています。【129】に類似した意見は、別の場でもお聞きしたことはありますが、ペナルティー的な課税制度については、いかがなものでしょうか。【131】の意見は新政権の林業政策に通じる点がありますが、森林の団地化、集約施行化、受託制度の推進などは、他県と比較して本県が遅れている部分です。森林所有者はこの点をどのように考えておられるのでしょうか。残念ながら、提案に対する意見をお聞きすることはできませんでした。

(3) 林業への支援

【57】森林の管理を担ってきた林業関係者には元気になってもらわないとこまる。森林を持続的に経営できなくなる。地球環境・温暖化に関わって、二酸化炭素の吸収源として果たすべき森林への期待が果たせなくなる。もっともっと森林の育成に力を注げるように支援すべきである。伐採奨励金制度を創設し、まず一定量の木材が市場に出るような安定供給体制を構築する。さらに、従来より一層充実した造林補助金制度と抱き合わせで実施することにより、伐採～造林～保育～伐採といった育林サイクルを確実なものにすべきである。

【124】現在の旧態依然とした林業に大量の補助金を投入しても問題の解決にならない。将来への投資となるような、人材養成やルール整備など全体の制度設計を行って、将来への成長に向けた財政投資を行うべきである。

総括して

林業の支援に対しては、厳しい意見や提案がよせられました。現在の林業が補助金を抜きにしては語れないことは事実かと思えます。今後は補助金が林業への支援に、どれだけ有効利用できるかを考えていく必要があります。その点で、木材の供給や、人材といった面での提案は重要かと思えます。加えて、先に紹介した木造建築を筆頭に、木材利用の促進が図れる制度も必要でしょう。これらが一体となって、森林・林業・木材産業のサイクルが、より良い状態になっていってほしいものです。一部に林業の現状に対する認識が正確でない発言も見られましたが、関係者以外の方には、林業の現場の状況が伝えられる事が少なく、情報を得る方法も限られているためと考えられます。森林・林業・木材産業関係者は、さらに情報の提供に努める必要があることが認識できました。一般ユーザーの理解を得るため、広く訴えていくことも必要ですね。

(4) 林道や作業道への提案

【43】山の人たちが次にすることは、木の苗を植えて林道の整備をし孫が成人したときに木を切って広々とした林道を使えるようにするべきでは？

【45】しかし、一度作った林道は「維持管理」が大変である事もお忘れなく・・・特に「安く作った簡易作業道」や「簡易林道」は、大雨等により斜面崩壊が起きやすく、一度斜面崩壊が起きればその改修工事にはかなりの費用と周辺の森林に影響を与える事になるのです。

【16】まずは作業道です。そうでないと、路網密度の低い本県は外材のみならず九州等の産地間競争に遅れを取ります。林業での働く人達の通勤労働の軽減にもなり、労働環境の改善にもなります。さらに、林業の機械化を進め、チェンソウの導入以降変わらない作業形態を変えていくことがこれからの林業を考えるうえで需要ではないでしょうか。

総括して

林業従事者の減少や機械の遅れ等の課題を抱えている奈良県の林業にとって、林道や作業道

など林内路網の整備が課題です。しかし、林道や作業道に直接携わるのは、県、市町村、森林組合、一部の林業家のみで、一般の方から、最も遠い部分かもしれません。

(5) 鳥獣害対策について

【78】林業生産活動意欲を低下させる大きな原因の1つにニホンジカの食害があります。鹿害防止柵を設置していますが、多大の経費を要し、後々の見回り等の管理は本当に大変です。猟友会の皆さんは猟期はもちろん、有害駆除にと頑張ってくれていますが、ご多分に漏れずメンバーの減少と高齢化が課題となっています。県、市町村、猟友会と林業者とが一体となった新たな防除体制の構築が急がれると思います。

【79】増えすぎているとしても、その被害は甚大であると実感した。山の生態系がこういった混乱のもとを生んでいるのではあるが生産林業にとっては死活問題で有る。

【122】野生動物の保護・調整に従事する人達は一定の所得が所得が得られてしかるべきだと私は思っています。それだけに、捕獲プロフェッショナルの提案は斬新でした。

総括して

鳥獣害対策も、現在の林業が抱えている大きな課題です。行政も対策に力を注いでいます。野生鳥獣との共存しながら被害を防ぐことが出来ればいいのですが。いろんなアイデアがいただきたいのですが、狩猟制度など法的な面での制限がありますので、意見の出しにくいテーマだったかもしれません。

(6) 里山整備について

【87】益田岩船(ますだのいわふね)は奈良県橿原市白橿町にある花崗岩の巨大な石造物です。造られた時期や目的などは不明で、亀石・酒船石などと並ぶ飛鳥の謎の石造物の一つで、その中でも最大級のもので、この貴重な遺跡が、竹の竹害で破壊されつつあります。

【88】山林の竹害を防止する方法は無いのでしょうか。竹の伐採だけでは対策にならないようです。何故なら、竹には大きな地下根があって、この地下根を除去しなければ、根本的な対策にならないようです。どうすれば良いのでしょうか?費用対効果の問題もありますので、大変難しい問題です。

総括して

里山整備についても議論がありました。特に、大和川流域での竹害は、ご存じの方もおられます。これといった解決策はありませんが、ボランティアやNPOなどの皆さんの里山での活動が地道に行われており、竹害に限らず、里山再生に成果が現れています。この会議室での議論がきっかけとなって、活動にご参加いただく方が増えればよいのですが。

(7) 森林の公益的機能への期待

【1】歴史ある奥明日香で、森林浴を楽しみましょう。

【114】土木学会は、「コンクリートから人へ」の呼び掛けに反発しているのですが、学会の名前に「木」が含まれていることに着目すれば、むしろ「コンクリートから緑へ」という、産業構造の転換を促し、賛同を得やすい呼び掛けを思い付けなかったのかな、と思います。

【116】「二酸化炭素(CO₂)の排出量の少ない自然素材である木材をもっと利用しよう働きかける。」という趣旨かと捉えました。地球環境の保全に関わって森林の継続的な保育管理と木材の積極的な利用はもっと関心を持ってもらいとの強い気持ちを持っています。

総括して

森林の持つ公益的機能に対する期待が高まっています。里山整備も期待の現れだと思いますが、地球温暖化防止や、保健休養に対しても期待が大きいことがわかりました。議論の中で、

住宅エコポイントに対する論評もありました。消費拡大の点からも、注目されているようです。今後の推移を見守っていきたいと思います。

4 終わりに

今回の「林業の振興を考えよう～森林の整備と保全について～」をテーマとした会議室では、発言内容から一部の関係者をのぞき一般の方からの投稿が中心となっていたと推測されます。林業については、関係者と一般の方との接触が日常あまり活発でないことから、この会議室で、接触が図られ今後の林業振興の一助となることを期待していましたが、残念ながらそれには至らなかったようです。コーディネーターも関係者に会議室を紹介し意見を出していただくよう働きかけましたが、成果は得られませんでした。関係者は、このような会議室にあまり興味を示されませんでした。

これは、ある意味、現在の林業の状況を象徴しているのかもしれませんが。最も重要であり、気遣うべきユーザーの意見を取り入れることのないまま、林業や木材産業が成立してきたことがあげられ、それも業界の衰退の原因の一つと考えられるからです。

テーマが大きすぎたことも、問題点として認識すべきと考えます。特に奈良県では、南部の吉野郡を中心とした吉野林業地帯、桜井市を中心とした木材産業、北部地域の里山再生に取り組まれているNPOやボランティアの方々など地域性があり、この場でそれの一つにすることは到底不可能です。しかしどのテーマも現在の森林や林業・木材産業にとって重要であることは言うまでもありません。テーマを絞り込んで議論を深めることが必要であったかと思えます。

T - 3 : ものづくり産業を考える

～奈良に興したいこんな産業～

コーディネーター：(正)馬場英彦

(副)中谷みさこ / (副)高塚恵一

1. はじめに

一昨年のリーマンショックを受けて、日本の経済界は非常な影響下にあり、いずれの企業もその例外ではない。さらにインド・中国を中心とするアジア経済界の躍進とともに、日本の中小企業のものづくり産は大きな過渡期を迎えており、奈良県も試練に立たされているといえる。1990年代後半から、日本の製造業の強さは日本の伝統文化、あるいは固有文化に源を発するという考え方が広まった。そこで企業のポリシーを技術の高さではなく、より精神的、歴史的なもので表すことが広まった。最近よく見られる「ものづくり」の時代は終わったとも言われているが、前期に引き続いて、「ものづくり」から「ものごとづくり」にそして奈良の伝統工芸や人材育成をベースに踏まえ、さらに情報やソフト・ノウハウに視点を移さねばならない。県民意識としての「ものづくり産業を考える～奈良県に興したいこんな産業～」と題して、下記の視点で会議室を開設し、28名の皆様から 510件に上る投稿を頂いた。

(1) 人材の育成

- ・ 1 - 1 個人の育成
- ・ 1 - 2 チーム・組織の育成
- ・ 1 - 3 起業家を生み出す

(2) 事業や技術

- ・ 2 - 1 地域資源(農・林・工・商業)を活かす
- ・ 2 - 2 製造・開発プロセスを追求
- ・ 2 - 3 未来への奈良産業

(3) 情報・ソフト・ノウハウ

- ・ 3 - 1 販売ノウハウ
- ・ 3 - 2 伝統文化・デザインを活かす
- ・ 3 - 3 奈良発のブランドづくり

2. 提案

(1) 人材の育成

県政の実現すべき課題「県外で『働き、消費する』から県内で『くらし、働く』」への提言
多様な働く場づくり：ソーシャルファーム

多様な働き方：協働労働
社会起業家の育成・創出
ソーシャルビジネス/コミュニティビジネス創出への取り組み
SB/CB から始まる新たなビジネスづくりをするネットワークづくり、人づくりの必要性
奈良県のインキュベーション施策
活動から事業へ
「世間よし、相手よし、われよし」松下幸之助の経営道・商人道の原点
企業風土や企業文化作りこそを、経営計画の根幹にすえる。
ものづくり技術の継承への挑戦

(2) 事業や技術

「一店逸品運動」のすすめ
事業承継・技術の伝承への取り組み
奈良の未来への産業を 金 物・資源 時間と言う軸で切って考える
多様な技術の維持、活用、発展を見えるようにし、他社技術との融合による新たな価値を生み出す
ホームページ内容の充実を図り、企業間の取引促進を図る
ユーザーの立場で「ものごと」を組み立てる基本姿勢の下に諸施策を計画し実行する
観光という資源の経済効果を数値化し県民のやる気を引き出す
農産物の直販所の整備と提案型販売で今後需要を伸ばす
1.5次産業プロジェクト大和高原気候にふさわしい農産物を、目標を定め、プロジェクトを結成
近隣他府県の企業との連携も視野にコンカレントエンジニアリング発想で商品開発と流通を実現
産業活性化プロジェクト・「長期計画の下、構造改革が必要」
新産業創出プロジェクト・・・観光の多様化・次世代医療産業集積プロジェクト・ウェブデザイン村・動画コンテンツ発信、三方良しのCB・SBなどのビジネスモデルを創出

(3) 情報・ソフト・ノウハウ

顧客の心理を勉強しよう。
「発明協会」「奈良アイデアクラブ」などの活動との連携で新製品の開発を。
商店街の活性化。「商店街観光ガイドツアー」の実施。「体験型観光」からお土産等物産品の検討を。
ワールドカフェなどの対話で地域活性化を。
モノを売る手段としてネットショップの活用。
IT活用、特に動画を活用で引き合い増加を図る。
奈良県立図書情報館にあるデジタルスタジオをもっと活用しよう。
伝統工芸の全国大会を企画主催して意識高揚と課題解決への道を探る。
個人の匠を支援するシステムが出来ないか。
遷都祭に向けて、「奈良まちおこし結び会実行委員会」が奈良の伝統を未来産業へ発信。
スカイプ導入や、ビジネスマッチングプログの活用
県花「奈良八重桜」をブランド化して展開する。

3. 発言の概略

(1) 人材の育成

1 - 1 個人の育成 (5名、24件)

働く・・・県政の実現すべき課題「県外で『働き、消費する』から県内で『くらし、働く』」
雇用促進施策・・・非正規、中高年者、大卒、障がいのある方全てにおいて厳しい雇用情勢。
多発している有期緊急雇用を長期安定雇用化するための計画の管理と推進に対する支援の必要性。そのための縦割り行政の打破が必至 ワールドカフェ等の対話方法論が有効ではないか。

http://takainara238.web.fc2.com/web/index_2.html

多様な働く場づくり：ソーシャルファーム・・・障害者或いは労働市場で不利な立場にある人々のために、仕事を生み出し、また支援付き雇用の機会を提供することに焦点をおいたソーシャルエンタープライズ的一种。地域資源を活用して奈良で創出できないか。

多様な働き方：協働労働・・・働く人どうしが協同し、利用する人と協同し、地域に協同を広げる労働。働く人びと・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合っ、人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合の法制化が進められている。

http://www.roukyou.gr.jp/main/sp/0911_001.html 奈良でこの働き方が広まりつつある。

1 - 2 チーム・組織の育成・・・志、企業理念の大切さ（5名、20件）

松下幸之助の考え方

- ・「世間よし、相手よし、われよし」松下幸之助の経営道・商人道の原点
- ・1人でも異見があれば、ちゅうちょすることなく決定を延ばす。一見無為無謀と見えた全員合意による方針決定は意外にも、意思決定後の実行の速さと完成度の高さ、方針・政策内容充実、成員の連帯感と使命感の高揚と同志的結合など、多くのメリットを含んでいる。企業風土や企業文化作りこそを、経営計画の根幹にすえる。このことが企業価値となる。ものづくり技術の継承への挑戦
- ・奈良市の地元の小学校で、子ども達にあるIT機器を分解して組み立てる「ものづくり教室」を実施。
- ・北海道での地域活性化とものづくり教育を兼ねた「おといねっぴ美術工芸高校」
<http://www5.ocn.ne.jp/~otokoh/>の事例。

1 - 3 起業家を生み出す・・・雇用がなければ起業が出来る！（6名、44件）

社会起業家の創出・・・地域での雇用創出や地域活性化が期待

- ・奈良県内において学生が中心となった自発的な動きが出て来ると、地域活性に繋がるし、その中でマネジメントの経験者が現れば県内の企業も優秀な人材を得ることができる。ソーシャルビジネス/コミュニティビジネス創出への取組み・・・地域の課題をビジネスの手法で解決！
 - ・・・ワンストップ相談窓口の必要性：京都府の事例 ソーシャルビジネスという枠の中に営利法人も個人事業主も入っていて、連携や協働へのブッキング能力も高く相談窓口も多。創業窓口でも主旨を話すとすぐに適切な人（窓口）を紹介等ネットワーク化されている。SB/CBから始まる新たなビジネスづくりをするネットワークづくり、人づくりの必要性
 - ・・・なら喜業家サロン <http://kigyokasalon.com/>、チャレンジ企業支援隊、大阪「NPO等の就業支援活動ネットワーク事業」
 - インキュベーション施策・・・創業インキュベータ、奈良まほろばふるさと雇用再生特別対策事業
 - 活動から事業へ
- ・NPOや新規社会起業家へのマネジメント支援が必要。持続可能な雇用を生み出せるような組織体作りへの中間支援機関が奈良には必要。

2 事業や技術

2 - 1 地域資源（農・林・工・商業）を活かす（13名、103件）

《現状》 観光・生活・産業・・・観光地としてのなら。ならまちへ向かう観光客で土・日は賑わっているが、中心街地の昼間人口が減って、ビルの空き室が埋まらず、先行きは楽観できない。《課題》 中心市街地の昼間人口が減っている。企業の営業所の統廃合が続き、ビルの空き室が埋まらない。「買い回り品のニーズが減り、顧客の商品選択もシビアだ。成功している店舗のように地元半分、観光客半分の商売を意識し、地元客が自分用やギフト用に買うような、質の高い商品を開発してほしい」

《提言》

「一店逸品運動」は、中小小売業者が逸品という、ひとつの商品やひとつのサービスの開発・発掘を通して、個店の品揃えを活性化させ、地域の商店街の各店が活性化する運動である。その結果、地域の生活者は、商品選択の幅を広げることができるとともに、買い物の楽しさを実感することができるようになる。すなわち、「一店逸品運動」への取り組みによって、地域の中小小売業の品揃えがレベルアップし、結果として、買い手である、生活者の消費生活が豊かになる。

2 - 2 製造・開発プロセスを追求 (5名、21件)

《現状》

環境問題やエネルギー問題、人口減少といった、途方もなく厳しい制約条件のなか、いかに持続可能な「ものづくりの仕組み」を作るのかが問われている。

《課題》

- ・事業承継
- ・技術の伝承

《提言》

最新の3次元CAD技術の習得と同時に、過去から現在までに蓄積されてきたノウハウを活かす。



コーディネーター会議

2 - 3 未来への奈良産業 (8名、67件)

奈良の未来への産業を 金 物・資源 時間と言う軸で切って考える。

金

- ・価値創出の成功事例を多くWeb上に公表する。
- ・多様な技術の維持、活用、発展を見えるようにし、他社技術との融合による新たな価値を生み出す。

(技術の棚卸しと発掘)

- ・ホームページ内容の充実を図り、企業間の取引促進を図る。
- ・データに裏付けされたマーケティングと本質美を追求した広義のデザインを奨励する。
- ・ユーザーの立場で「ものごと」を組み立てる基本姿勢の下に諸施策を計画し実行する。

物 - 資源

- ・観光の経済効果を数値化し県民のやる気を引き出す。
- ・観光関連として各施設、店舗のホームページに力点を。
- ・駅前、メインストリートの景観は重要であり、個性あるまちづくりを住民一体で作り上げる。
- ・農産物の直販所の整備と提案型販売で今後需要を伸ばす。
- ・伸びない林業に対し、マンションでも「和室は住宅の宝物」
- ・建築メーカーとのパートナーシップを強める中で、磨き丸太、乾燥建材の供給など付加価値追求企業を支援する。

時間・・・無駄排除と整合

- ・1.5次産業プロジェクト大和高原気候にふさわしい農産物を目標を定め、民間、企業、大学、行政で構成するプロジェクトをコーディネーターの下に推進する。
- ・産業拡大プロジェクト・・・近隣他府県の企業との連携も視野にコンカレントエンジニアリング発想で商品開発と流通を実現。
- ・産業活性化プロジェクト・「長期計画の下、構造改革が必要」
- ・新産業創出プロジェクト・・・観光の多様化・次世代医療産業集積プロジェクト(福島県)
- ・ウェブデザイン村・動画コンテンツ発信、三方良しのCB・SBなどのビジネスモデルを創出。

(3) 情報・ソフト・ノウハウ

《現状》

- ・ものづくり産業を考えると、商品の開発・技術・製造に重点をおかれ、販路や販売方法は後回しになっていないか。
- ・奈良は自然と歴史に恵まれ、国内3位の国宝・重要文化財を保有し、多くの『伝統工芸』技

術ノウハウを育んできた土地である。自然と文化の調和を大切にする日本ならではの「ものごとづくり」は、世界から尊敬され、世界の「ものごとづくり」としての奈良のブランド発信と産業創出をし、遷都1300年に相応しい「世界への情報発信」を考える。

《課題》

「ものづくり」と「売りづくり」は同時立ち上げで考える。いかに売るか、販売ノウハウに関する提言を探る。

大和路ハイウェイの高速インフラ、隠れた多くの知的財産、情報通信関連に携わるものとして、確かに情報を生かした発信ができていないように思える。従来の「ヒト」「モノ」「カネ」の3大要素に加えて「情報」は最も重要な要素。奈良の伝統産業、奈良のエコ環境、高度の情報インフラなどを活用した、新しい奈良の産業創生は、情報通信を生活に生かしている若い世代にこそできるように思う。

《提言》

3 - 1 販売ノウハウ（5名、38件）

・顧客の心理を勉強しよう・・・近年、消費者の消費感性はますます高まっている。何を伝えれば消費者は買うという行動を起こすのか？「商品(モノ)」にピントを合わせるのではなく、意外と多くの経営者や店主、販促担当者が気付いていない“ひと”にピントを合わせた「動機づけ」の視点を学びます。

商店街の活性化で売り方を考える。・・・生駒駅前商店街の「100円商店街」が事例など、商店街。地元百貨店やファストフード店、銀行までも巻き込んで活性化されている様子と実施のポイント。『商店に対する顧客のバリアを無くし、事業者同士の横のつながりも密にする』効果を探る。

商店街観光ガイドツアーの実施

観光地をガイドツアーが案内するがごとくに、商店街を案内して回るといっても、近隣の観光地とも合わせて、奈良でもぜひ取り入れられるべき。

地元商店街や街作りサポーターが集まって、このような事例を参考にワールドカフェなどの対話を継続しながら、その土地に合った地域活性のカタチをつくる。誰かがやる・・・のではなく、その地域ごとに実際に動くことが大事。

観光というとソフトの世界だが、お土産等物産品の売上など地域経済を担う産業でもあり、ものづくりの視点から「売れるものづくり」のヒントになる。観光ビジネスであっても、ものの販売であっても、ワンストーリー/ワンワールドの基本は変わらない。「体験型観光」講演、観光事業者への提言、旅行業者や旅行雑誌の専門家から顧客ニーズの捉え方を学び、地域コーディネータから売れる観光商品造成のノウハウを学ぶ。

モノを売る手段としてネットショップの存在がこの不況の中でも着実に販売を伸ばしている。たとえば出産を機に、若いおかあさんはスーパーでの買い物もネットスーパーをフル活用し、生鮮品や紙おむつ、お菓子などを購入されている。

IT活用、特に動画を活用・・・動画によって遠くから引き合いが来る。これからの「ものづくり産業」を考える中で、自社の商品や企業のご紹介をHPの中で、1分間の動画でご紹介する事が益々重要。

3 - 2 情報・ソフト・ノウハウ・・・伝統工芸・デザインを活かす（9名、76件）

毎年、年に一度、伝統工芸全国大会が各地で催される。ぜひ奈良県でも全国大会を企画主催して意識高揚と課題解決への道を探りたい。

筆匠として、女性伝統工芸士がらっぱに活躍されている。一人の職人が全て、製造から販売まで行うには限界がある。大量生産ではないので、全て自身の手作り、自作の商品ばかりだ。このような個人の匠を支援するシステムが出来ないか。

遷都祭に向けて、「奈良まちおこし結び会実行委員会」が新たにいくつかの伝統工芸を結びその魅力を日本はもとより世界の皆さんに見てもらおうとの動きあり。『古くからの日本の歴史』と『現代』とのコラボレーション。

スカイプ活用の提言・・・スカイプの利点を活かして、最近では地方の自治体など公共の施設や企業でも導入されていたりしているので、一般的に認められたソフトウェアである。

ビジネスマッチングブログの活用 <http://bmb.oidc.jp/>・・・ものづくり関係者は登録して利用してはいかがか？文明の利器、パソコンと通信サービスのインフラ、さらにデジカメやビデオカメラとデータを編集するアプリを使う勇気を持って。

3 - 3 情報・ソフト・ノウハウ・・・奈良発のブランドづくり（13名、83件）

県がブランド品だと認めた商品を県民は買うべきで（まず県民が納得するもの）そして「これは良い！」というものを県外にもっと発信すべき。県ブランドを誇れるようなブランドに育てるのは私たち自身の責任。きびしい言葉や目をかけて、商品のソフト側を育てることをしつつ「買う」ことで相応しい企業や商品に資金が自然に集まって行く。奈良ブランド化にも当事者意識が必要だ。

「IT活用推進として、EC活性化セミナー」への参画を。・・・日本最大級のショッピングモール「楽天市場」を運営する楽天株式会社より、インターネットの急速な拡大により注目されている「ネットビジネス」をテーマに、導入後の運営について研究しよう。

既にある柿の葉すしは多くのファンを持っている。大変美味しいものだが、何時も食べるには少し値段が高い。製造者や販売者が利益を削るのでなく、安く販売出来るように製造販売を一層工夫してもらうことも二次的な「ものづくり」ではないか。

奈良発のブランド作りという概念は、とても素晴らしいことである。敢えて「奈良発のブランド作り」の枠を捨て、たくさんのアイデアの中からブランド化した方が堅実かも知れない。それぞれのアイデアを奈良地縁のものに結び付けてはどうか？

リッツカールトンに学ぶ・・・奈良ブランドを構築するために、トップ以下が集まってそれらを決める所から始まる。他府県の県庁がプロジェクトでそれを行い、観光や都市開発などで成果を出した。お手本としてみせるには「憲章」を作った県が最高のモデルとなるのでは？平成19年度「奈良市地域ブランド向上3ヶ年計画」新奈良ブランド開発計画の遂行。その後フォローの徹底が重要。計画推進に当たって目標設定をし、それに合わせて定期的な評価を行い、より良い改善を加えながら運用して行かねばならない。市民がもっとそれを理解し協力する土台を築いて行くのが元締めの仕事。市民にも伝わるような情報開示につとめてほしい。

東京という奈良から離れたところで何かが見えているのでは・・・。東京は人口が多い、金持ちが多い、京都や奈良に関心を持っている人が多い等々の話だが、改めて奈良を見直すきっかけになった。奈良女子大で「県外からみた奈良」という内容で講演をしたのもその一例。

「奈良県アイデアくふう作品展 展示作品募集」との連携。今後が楽しみな企業の新製品や試作品、発明愛好家のユニークなアイデア品、一般の人が見ても楽しい理科クラブ作品や教材。企業がこのようなコンテストと連携することで新製品を生み出す。

奈良には、「情報」力が足りない。公的施設や観光センターに行くと、多くのイベントなどのポスターやチラシが目につくが、これを一般に広く知らしめる方法を考える必要がある。ブランドづくりも、情報発信力が伴わないと大きくならない。個人個人の情報力が基本にあると思うので、まず、個人の情報力をつけるための施策が必要。

4 . おわりに

前期より引き続き開催した「ものづくり産業を考える会議室」では前回の指摘にもある通り、「現場の参画無しに政策無し」と言われるように、現場、行政、第3セクターの連携が重要である。県下の新聞、雑誌、放送各メディアを媒体として、事業主体当事者が主体性を持って参画する、企業、行政、研究機関NPO 協働の「ものごとづくり推進会議」を始動することが有効と考える。奈良版の地域クラスター、産業クラスターとして、具体的なプロジェクトを推進することを期待したい。

とりわけ、下記の点を上げておく。

- 1) 長期的な視点で(骨太の)ランドデザインを描くことが大切。
- 2) 奈良の地域資源について、広域・グローバルな視点で再評価する。
- 3) 再評価をベースに、あらゆる技術・事業モデル・マーケティング手法を動員して、広域・グローバルな評価に耐えうる産業育成の中長期戦略を構築する。
- 4) けいはんな学研都市は『環境・エネルギー』に資源を集中してゆく方向とのこと。先端大と

も連携し、こうした流れを奈良の産業政策にも反映してゆく。

5) 奈良に豊富な農林資源を生かすための『プロジェクト』編成の提案を、地域ごと、テーマごとに立ち上げ、期限付きで事業化まで見届ける新しい仕組みとし、『提案だけ・見せ掛け』のプロジェクトから脱却。

6) さらに、奈良をどのような県にするのか、自分たちで議論し、ビジョンをつくらうとの「奈良の将来ビジョンをつくるフォーラム」が発足された。このフォーラムの開催の趣旨でも述べられているが、今までのような、国主導の画一的な方法では、活力ある街や村にすることが出来なくなってきた。固有の自然、伝統と文化に根ざした、住民の主体性のある発意と実行が、その地域の活力と持続可能な発展を生み出すことになる。このような活動へと繋げてゆく事で、本会議室での論議が将来にむけて、発展的に活かされる事を願っている。

前期の「ものづくり産業を考える」会議室でも触れているが、提案のあった案件を現実に顔を突き合わせて「ものづくり」について検討会を開催出来たことは、大変貴重な経験であった。また、お互いの技術を磨き、事業経営を情報交流する場として、奈良県立図書情報館の一室で「勉強会」を数回にわたって開催することも出来た。その他、電子会議室で案内を頂いたイベントに参加し、その感想を投稿頂いたり、いわば電子会議室というバーチャル世界(あの世)と現実世界(この世)を自在に行き来する中で人脈ネットワークが構築され、知恵の交換がなされてゆく姿は、必ずや奈良県の産業活性化に一石を投じる力となり得ると確信している。

500件以上の多数にのぼる貴重なご意見ご提言に厚くお礼を申し上げます。

T - 4 : 奈良の未来を創る

～平城遷都 1300 年祭を成功させ、奈良の魅力を語る～

コーディネーター : (正) 伏見敦

(副) 城戸振作 / (副) 中村武嗣

1. はじめに

最近の奈良県知事荒井正吾氏の発言の中に「奈良の未来を創る 5 つの構想案」というのがあった。1 番に「また訪れたい奈良に」、2 番に「ポストベッドタウン奈良」、3 番に「健やかに生きる」、4 番に「生涯を通じ、生き生きと学び、暮らし、愛着と誇りを持つことができる奈良を目指す」、そして 5 番目に「南部を元気にする」とあった。

まさに、私達が戴いたテーマに知事が大きな関心を持っているように思う。今回の集約に当たって、上記知事の思いに対する県民の回答が見られたと感じた。

副題にある「1300 年祭の成功」に話題が集中し、奈良市周辺で実施されている道路や平城宮跡の整備事業に焦点が当たりすぎ、「奈良の魅力を語る」についての投稿が少なかったことにはやや不満が残った。それにしても、多くの方から極めて格調の高いご意見をよせていただいたことには感謝したい。

奈良の地にとって大きな節目となる平城遷都 1300 年を迎え、行政主導の下、官民一体となった 1300 年祭の記念行事が賑々しく行われつつある。道路などのインフラ整備も進み観光客などを呼び込むのに必要な環境は整ったかに見える。しかし、住民にとって不安は残る。駐車場・渋滞なども含めて今後の奈良はどうなるだろうか。

そして平城遷都から 1301 年、つまり平成 23 年以後の奈良はどうなるか、幅広く意見を求めたわけだが、行政からの見通しや展望は、知事の発言以外、今のところ見あたらない。救いは、意見の中に見られた住民の「奈良県人」としての意識が明確になりつつあることだろうと思う。

京都・大阪という大都市に挟まれ、世界有数の観光資源に恵まれてはいるものの、1300 年の営みを活かした「今からの奈良らしさ」「奈良だからこそ生きる物や事」が有るはずであるし、そこから既成概念にとらわれない奈良的発想の未来志向が生まれることを期待したい。

2. 提案

(1) 県が発行するガイドブックに対する提案

・会期終了後何が残されて何が撤去されるのかもガイドブックにはっきり書いた方がよい。

- ・最近奈良に住む外国人が多く見られます。また、観光する外国人も多様です。言語のガイドブックを作成する必要あり。
 - ・県内各地で、伝統的に行われている各種行事を集約し、わかりやすいガイドブックを作る必要がある。
- (2) 平城宮跡内のあちこちに簡易型の建物が建てられています。終了後は、休憩所として1部残すことを提案します。
 - (3) 仮称「関西広域連合」に参加した方がよい。他府県と積極的な協力関係の中から展望が開けるはず
 - (4) 住民に奈良を愛し理解するための広報活動を計画実施する。
 - (5) 住民がオーナーであるような意識を持ってもらうためのイベントを企画実施。
 - (6) 交通マナーなどを教育する場面を警察などを中心として自治会組織等にも幅広く実施する。

3. 発言の概略

1) 遷都1300年祭

祭そのものへの意見・苦言

- ・平城遷都1300年祭はどのように行われるのでしょうか？成功とは何を目標にするのでしょうか？箱物に多くのお金をかける一過的なイベントはもういいです。
- ・奈良県に多く存在する伝統的財産、アーカイブなどを定常的に披露できる仕組みをスタートさせればよいと思っています。奈良県をグローバルに発信させ、常に、県民、観光客を楽しませることができればよいと思います。
- ・それにしても工事の遅れでしょうか？TVや新聞などで1300年祭が大きく取り上げられているのに、住民にしっかりした説明がなされていないから、遠隔地から問い合わせに困っています。また、駐車場や道路事情など困ることだらけです。



奈良瑠璃会

- ・公式ガイドブックの不備や読みにくさ、文字の小ささ、不満がいっぱい
- ・一部の人の独断専行
- ・飛鳥、藤原、平城と全部繋げて壮大な奈良の祭りにならなかった
- ・知名度は上がってきたが県外からの問い合わせに答えられる資料が無い
- ・1年間ずっと開催しているかのような表現が観光客を戸惑わせている

- ・成功とは何を目標にするの？・何の為に行われるのか？
- ・テレビ的に見世物を展開して、物販で儲かったという「成功」でよいのでしょうか
- ・開催趣旨は立派でも、平安京より少し古い、
- ・1300年という言葉にこだわって命名した祭りのように感じる
- ・グランドデザインがおそまつ。二月堂修二会に多くの人が訪れるのは周知に事実なのに、何故イベントを合わそうとしなかったのか？
- ・2ヶ月早めに工事を開始すれば、1月1日には、間に合っていたのに
- ・知らない間に様々な関連イベントが行われている事をテレビ等の報道で知り

奈良の歴史・文化への提言

- ・未来を創るとなると、過去の歴史を知らなければなりません。奈良は「国のまほろば」と言われていたように、飛鳥時代の律令国家体制成立から、藤原京、奈良時代(710年～)へと朝廷を中心にして政治、文化が継承されて奈良が大いに栄えて来ました。全国から多くの人材や珍しい産物や文化が集められて、盛大に繁栄していた平城京が、長岡京への遷都の後、しばらくして華麗な建物も人も文化も跡形もなく無くなりました。後に残ったものは、数々の有名な神社と南都七大寺と言われる仏教寺院(こ

これらの社寺仏閣は今も残っています。)と土着の庶民たちでありました。この頃の庶民の生活は、掘っ立て小屋の土間に藁を敷いて寝起きをしている貧しい生活が普通だったようです。都が無くなった後の奈良の庶民の上には、巨大な神社や仏閣が重く乗りかかっています。

こんなに多くの宗教施設が存在する所が他にあるのでしょうか？ 庶民の上には特殊な知識と権力を備えた神職や僧侶が上流知識層として大勢おりました。宗教はそれぞれ特別なこだわりを持って存在しています。それほど多くもない人口の庶民は、それぞれの宗教に奉仕をし、社寺と宗教人を支えながら生活を続けなければなりません。

奈良という特別な土地柄ゆえに、庶民は自分たちの生活の向上と発展を目指して努力を続けて来ましたが豊かな生活の実現は困難でした。その庶民の生活を象徴しているような言葉があります。「奈良に旨いものなし」、美味しいものを食べて生活を楽しむゆとりのある文化が育たなかった、そんな中から生まれた言葉かもしれません。今ではそんなことは無いと思います。

平城京以後の奈良はこのような歴史を担っております。

『奈良の未来を創る』ことは、社寺仏閣や観光産業に多くを依存することなく、大地に自ら立ち、自然の「理」を生かした産業を興すことであると思います。

そして、旨い食べものを色々沢山作って「奈良に旨いものなし」の汚名を返上して、生活を楽しむ奈良を創ることです。

そうすれば、他府県からも観光を兼ねて旨いものを食べるために喜んで来訪する人々も増えます。こうして奈良の未来は良くなります。

2) 奈良の未来への提案

- ・現代化して、ビジネスが栄え、観光で栄える未来でなく、日本の原点としてのスタンスを保持して日本の原点になってほしいと思います。奈良県には、世界遺産や、多くの文化財があり、これらを朽ち果てることのないように、保存し、後世に伝えていくには、現在の仕組みでは[、]限界があると思います。
- ・奈良県全域を、「奈良DC」にして、奈良の未来を託してはいかがでしょうか。過去のことを言うのを一切止めて、現在の奈良を誇りに思い語ることが出来るような奈良にすることが、未来の奈良を創る事だろうと思います。
- ・「奈良」は日本の原点・出発点です。それを「護ります」そのために住民も自己規制を掛けて「奈良の魅力」を護ります。生活レベルがいわゆる「現在的」ではないが「奈良」を護ります。という事がひとつの「奈良の未来を創る」道ではないかと思います。如何でしょうか？
- ・奈良は日本文化発祥の地として、日本固有の文化を後世に伝える役割があると思います。奈良県にある多くの遺跡や神社仏閣は、遺産としてメンテナンスをしながら保存しなければならないと思いますが、文化はそれだけではないと思います。文化はその地に住む人々によって培われていきます。奈良の地が醸し出す雰囲気(これは住民によって作り出されます)が多くの遺産と融合して一つの文化を創り出していると思うのです。奈良を訪れた人たちが「奈良を度々訪問したい!」「奈良に住みたい!」「奈良は住みやすい土地だ」とかを思ってもらえるようにすることは、我々奈良の住民が身をもって奈良の文化(それは日本に古くから伝わる固有の文化)を自覚して行動しなければならないと思います
- ・ゴミの無い綺麗な町になることは実に清々しい良い気分になります。住んで居る者にとっても、旅行者、観光客にとっても清潔な町は望ましいことです。先ず、私たちが住んでいる周辺からゴミを一掃しましょう。これが奈良県全県に行き届くと大きな無形の財産となります。「住みたい町」のトップを目指しましょう。
- ・奈良県は「観光立県」なのか、「IT立県」なのか、「商業立県」なのか、「工場誘致立県」なのか「日本の原点立県」なのか方針を明確にして県民が住みよい未来を創ることが他県・他国の人々に「奈良の魅力」を提供できるのではないのでしょうか。「奈良の未来を創る」には「この方向だ」という方針を確定、広報することが必要ではないのでしょうか。
- ・書離れ(筆で書かなくなる)が言われてから久しい。今、書は若人の間で燃えている。奈

良の書の文化の伝承を目指して「書くことは楽しい in 奈良」を開催し、書の幅を広げ（たとえばデジタル技術とのコラボレーション）、筆で書く楽しさを伝えることで大学・高校・中学の書道部を活性化する活動をしてきた。筆で書く若者が減少して、奈良の伝統産業：墨・筆が廃れるのではないかと心配していたが未来に光が見えた気がする。

特に、高校生が好きな音楽にのって書に挑む「書道パフォーマンス」はこれが本当の書道かといわれながら、若者たちには大人気である。しかも大量の墨汁の消費と太い筆は奈良の伝統産業にとって魅力。日本の若人が「書」に熱い視線を向けていても、奈良の若人は今一つ。1300年前、聖武天皇は大仏造立以外に2万字の書「雑集」を残している。書の発祥の地にふさわしい「書くことは楽しい in 奈良～筆で書く楽しさを伝えよう～」で、力を合わせて奈良の「書」を盛り立てませんか。

3) 観光への提言

- ・「奈良の未来」は決して高層ビルが建ち、高速道路が縦横に走り、最先端ファッションがあふれる街になる事ではないと思います。あらゆる分野での日本人の原点を表現し続ける唯一無二の地域であることが「奈良の未来」ではないでしょうか。「奈良の未来」は「こうなる」のだという「戦略」を表明する県民レベルの「戦略県民会議」があっても良いように思います。
- ・住民によって作り出されるもの(雰囲気でしょうか?)は、観光客や旅行者が敏感に感じます。「奈良を度々訪問したい!」「奈良に住みたい!」「奈良は住みやすい土地だ」とかを思ってもらえるようにすることは、我々奈良の住民がそれぞれ自覚を持って行動しなければならないと思います。観光客相手に儲けることだけを考たり、奈良に人が入りやすいようにインフラ整備だけすればいいというようなことだけでは文化を伝えることは出来ません。日本が持つ誇りある伝統、それは礼儀であり親切心でありほほえみの心ではないでしょうか。最近ともすると拝金主義に落ちいたり、自己を省みず、責任を他に押しつけるような風潮が全国的に蔓延しています。他の責任を問う前に、すべからくみんなが当事者になったつもりで考え行動することではないでしょうか。奈良の人々が、このような気持ちを持つことで奈良の地に日本の伝統的雰囲気を醸し出すことが可能だと思うのですが。
- ・奈良は、やはり、文化都市として、世界に通用する都市でありたいものです。仏教芸術、古文書の解説、遺跡などなど。歴史書に出てくるようなものを、もっと一般に分りやすくして、象徴的なものを明確にして世界にアピールできないか。この点では、京都より古いのですから、違いをアピールできるのではないのでしょうか。
- ・奈良市内を見ていると、自分さえよければ少々厚かましいこともOKと感じられます。

- ・自治体における観光サイトの国際度が全国平均を下回った
- ・まだまだ蔓延る大仏商法への批判(駐車料・不味い食べ物)
- ・奈良には泊るところがないから、お客の誘導が出来ない
- ・奈良公園周辺の慢性的な渋滞と駐車場不足
- ・神社仏閣の境内に車が並んでいるとうんざり

すべての人がそうだというわけではないでしょう。奈良の交通マナーの悪さが度が過ぎていことも多々見かけます。旅行先で怪我をしない、物を盗まれない、犯罪に巻き込まれないは最低限の望みであり、あってはならない事で、また、ないものと信じているものです。奈良土産に不快感を持って帰ってもらいたくありません。安全で、安らぎのある、住人の親切心や思いやりあふれる健康的な町であってほしいものです。奈良は誇りある大いなる田舎でよいのです。大都会を目指す事はありませんし、できません。また、古都を大切にすることもよいのですが、その昔の優雅な気品のある心がなければいけません。大局から都市を見るのもよいのですが、日常生活の観点から町づくりを考えましょう。

- ・夜の散歩を楽しみたいとの希望があり、薬師寺の東塔、西塔、興福寺の五重塔のライトアップを見せました。東向商店街でお茶でもと思い、通りに入ると閉まっているお店が多く

淋しい限りでした。観光地はせめて10時ごろまでお店を開けておいてはいかがでしょうか？奈良が淋しくなるのは悲しいかぎりです。賑やかな町を演出していただけませんかでしょうか。車で奈良の観光名所をご案内しました。驚いたことに駐車料金が1日800円から1000円！

- ・奈良の観光地は、歩いては遠すぎる間隔にあるために駐車料金だけで1万円弱の費用がかかってしまい、観光地入場料と併せて数万円の費用が発生しました。迂闊に他人様を案内できないなといった感想です。

1300年祭でも奈良を「また来たい町」にするか、それとも「2度と来たくない町」にするかは、意外にこういうところにあるように思います。夕方6時を過ぎたら店屋が閉まってしまう町に、大人[な]の客が魅力を感じるのでしょうか？

4) 食での提言

- ・東京から友人が来てくれました。お昼ごはんをと思ったのですが、小奇麗なお店が見つかりません。奈良に住んでいる友人に聞いてみたのですが、名の通ったお店は料金は高いし、安いお店はなんとなく奇麗ではありません。居酒屋さんや夜のお店のグルメマップがありますが、お昼のお店のマップがあればうれしいのですが。

- ・美味しい食べ物を（特徴、味、価格）
- ・観光地はせめて10時ごろまでお店を開けておいては？
- ・賑やかな町を演出していただけませんかでしょうか
- ・夜のお店のグルメマップがあるが、お昼のお店のマップが無い

5) 住環境での提言

- ・今でも、土曜日などの渋滞はひどいものです。奈良公園付近から、平城宮跡付近まで、車で通常は15分程度ですが、先週の土曜日の夕方は、小一時間かかりました。地域住民にとっては、困ったものです。また、先週、東京からある夫妻が車で、奈良公園を訪れて、渋滞に巻き込まれて駐車場の少ないのに苦勞し、悪い印象をもったそうです。公共交通機関の利用を訴え続けることは必要ですが、現実には、それだけでは解決しないでしょう。車の収容能力を上げることも考える必要があるでしょう。1年間という期限で、平城宮跡内、或いは周辺の車の収容能力をもっと上げることも考えるべきでしょう。
- ・桜井市・橿原市や明日香村には、万葉集や古事記・日本書紀に書かれた風景が、1300年前とほとんど変わらない形で保存されています。しかし、昨今の宅地開発や市街地拡大の影響で徐々にその風情は失われつつあります。古代史を愛するものにとっては、大変悲しい事です。
- ・現に、大鳥が飛んでくる橘寺周辺でも、宅地化の波は押し寄せています。橘寺の山門から三輪山を眺めると、右手に巻向山、左手に龍王山、中央に三輪山が見えますが、民家の屋根が邪魔してその風情は無くなります。大変悲しい事です。二階建ての民家の屋根が景観を損ねています。この地域の『飛鳥・藤原 古代日本の宮都と遺跡群（明日香村・桜井市・橿原市・奈良県）』は、ユネスコ世界遺産認定を求める運動がなされています。名所旧跡の市街化を否定する積りはありませんが、景観を守るための建物の高さ制限や、建物と景観のマッチング等の調整が必要ではないでしょうか？

- ・住民が生活を楽しむ
- ・生活レベルがいわゆる「利便性追求型」ではないが「奈良」を護る
- ・奈良のミニ東京化、京都化には大反対
- ・奈良の景観や町並みを壊さない方向
- ・景観に求めるものは過去・現在・未来への調和
- ・奈良の未来を託せる新しい組織体制で、奈良独自の地方政策を
- ・大阪や京都のような便利さを求めず、心が和み、癒される未来を
- ・住民のわがままで生活の便利を求め過ぎない「自己規制」
- ・「気持よく帰っていただく」と共に『気持よく住める』事が大切
- ・清潔な環境、住んでいる人々が親切である、謙虚である、にこやかに挨拶が交わされる、交通ルールが守られる等を発信

IV. 広報活動、登録・投稿・アクセス集計

1. 広報活動（実施した広報媒体）

(1) 新聞発表（奈良日々新聞）	1 件	自治体機関	18 機関
(2) ホームページリンク（団体、機関）	12 件	自治会	4 地区
(3) メールマガジン（団体、機関）	2 件	企業	2 社
(4) 機関誌	1 誌	医療機関	1 機関
(7) ポスター（公共施設、企業、交通機関）	14 枚	研修会	3 件
(8) チラシ（公共施設、企業、交通機関）	6477 枚	その他	10 件

2. 広報活動の内訳

- (1) ホームページリンク
- ・関西ニュービジネス協議会 <http://www.nb-net.or.jp/linknew.html>
 - ・なら 21 世紀フォーラム http://www.h7.dion.ne.jp/~nara21cf/link/link_f.html
 - ・奈良交通 <http://www.narakotsu.co.jp/link/index.html>
 - ・e-AAC <http://e-aac.naist.jp/e-AAC/index.jsp>
 - ・KCN 地域情報バナー掲示 <http://www.kcn.ne.jp/>
 - ・奈良市ボランティアセンター http://www.naraymca.or.jp/nvc_home/
 - ・フレンドシップ・フォース・奈良 http://www.geocities.jp/ff_nara/
 - ・奈良ストップ温暖化の会 <http://naso.jp/link/index.html>
 - ・県トップページ、“おすすめサイト” “県民参加” http://www.pref.nara.jp/c_etc/osusume.html
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1317.htm
 - ・奈良県地域づくり支援課ホームページ <http://www.nara-download.jp/mahoroba/>
 - ・いこま育児ネット
- (2) メールマガジン
- ・近鉄ケーブルネットワーク：メールマガ <http://www.kcn.jp/support/kcnmag/>
 - ・県庁内 WEB（知っとこ広報 10 / 21）に掲載済み
- (3) 機関誌：県民だより奈良 12 月号（12/1 発行）の（お知らせコーナー）に掲載
- (4) ポスター / チラシの配布先

	ポスタ	チラシ		ポスタ	チラシ
（県出先機関）			（奈良市機関）		
・奈良県図書情報館	A 1 X2	150	・奈良市北老春の家	A2	30
・県広域地場産業振興センタ	A3	50	・奈良市総合福祉センター	A3	30
・西奈良県民センター	A3	50	・奈良市北部会館		30
・県総合ボランティアセンタ	A4		・奈良市ボランティアセンター	A3	30
・東京まほろば館（依頼済み）	A3		（生駒市出先機関）		
・林業組合		200	・生駒市中央公民館	A3	30
（他市町村）			・生駒市鹿ノ台公民館	A3	30
・天理市役所		50	・生駒市市民ホール	A3	30
・大和郡山市役所		50	・市立図書館	A3	30
・葛城市役所		50	・生駒福祉センター		30

(自治会)	チラシ	(企業)	ポスタ	チラシ
・奈良市四条大路町自治会	150	・奈良交通株式会社路線バス 100 台		2000
・奈良市四条大路南町自治会	250	・南都銀行 (100 支店に配付)		2000
・奈良市左京団地自治会	400	(その他)		
・奈良市青垣台	100	・e-AAC 会員(電子メール)		77
合計 ・ポスター : 14 枚 ・チラシ : 6477 枚		・ならやまサロン教室	A3	30
		・河井医院		100
		・県とNPOとの協働事業提案会		50
		・e-AAC メンバーによる配布		450

3. 電子会議室 アクセス・投稿状況

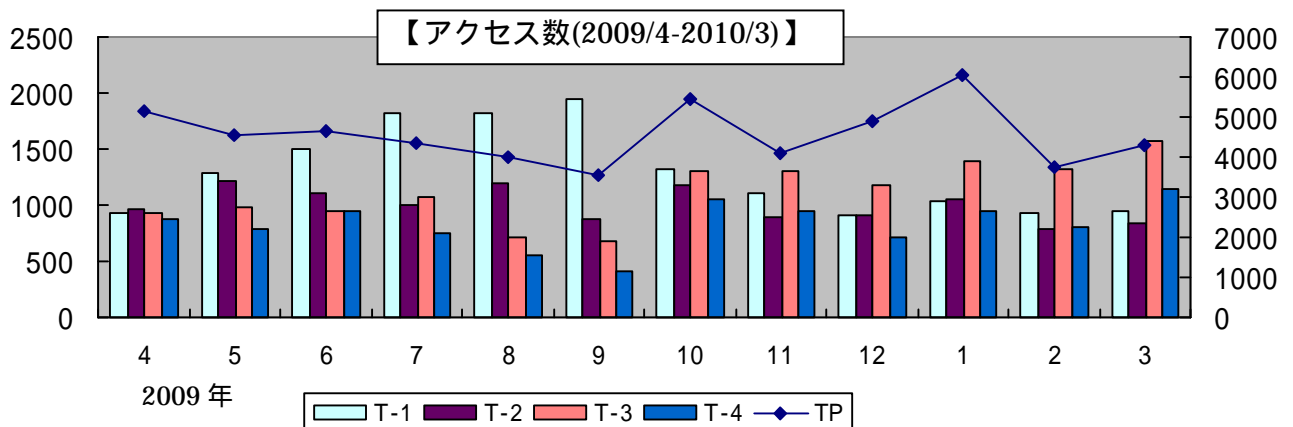
(1) 電子会議室アクセス数 (2009/10 ~ 2010/3)

	TP	HP	T-1	T-2	T-3	T-4
09/10	5432	6924	1314	1177	1297	1062
09/11	4114	5717	1105	900	1300	940
09/12	4894	5028	911	905	1176	708
10/1	6053	5756	1034	1061	1399	951
10/2	3748	5223	925	793	1329	799
10/3	4285	5954	942	847	1577	1134
計	28526	34602	6231	5683	8528	5594

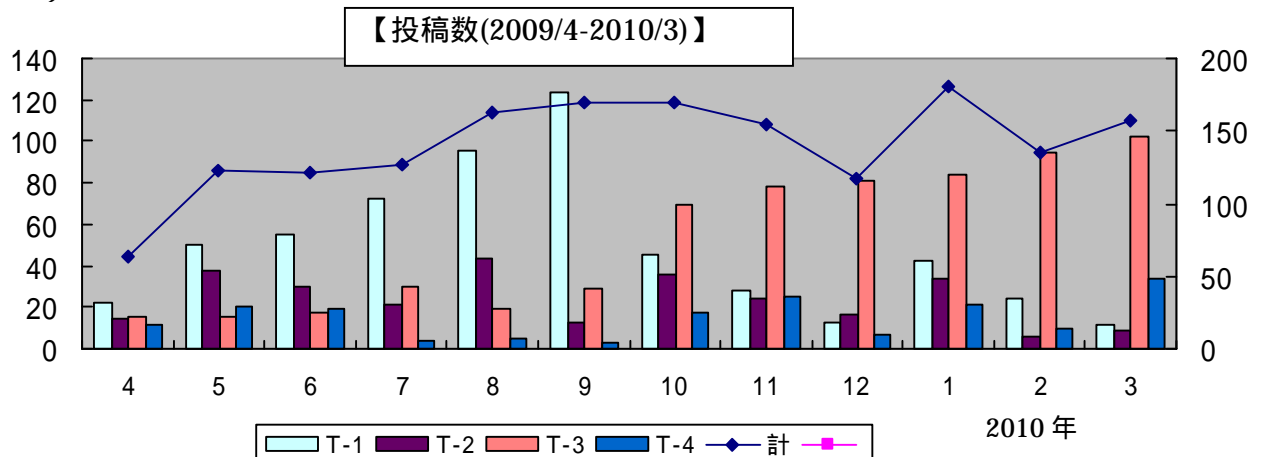
グラフ

- ・左縦軸：各テーマごとの件数 (棒グラフ)
- ・右縦軸：トップページ (折れ線グラフ)

電子会議室アクセス数



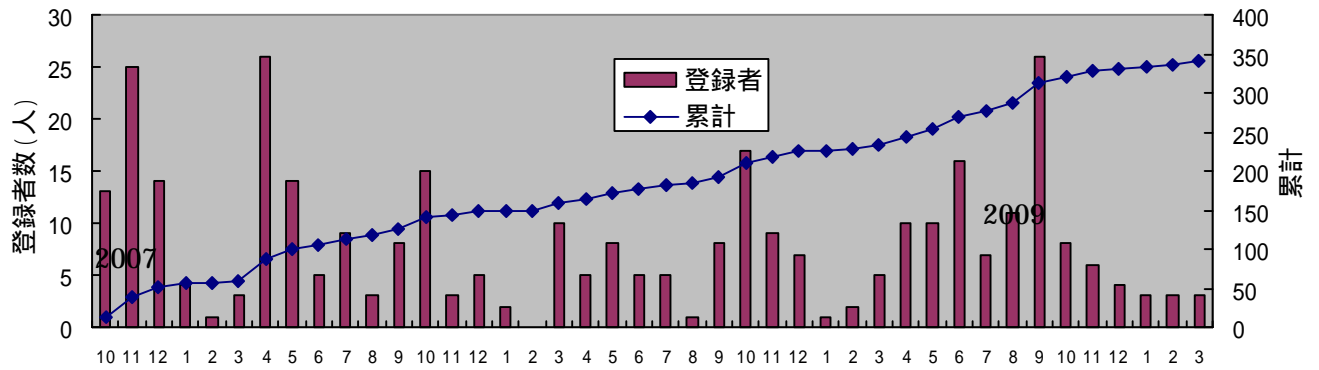
(2) 月別投稿数



(3) 登録者状況 (2006/10/1-2010/3)

	18 下	19上	19下	20上	20 下	21上	09/1 0	09/11	09/1 2	10/1	10/ 2	10/3	累計
登録数	60	65	35	32	41	80	8	6	4	3	3	3	340

【期最多登録者】 平成 21 年上期：81 人 平成 19 年上期：65 人 平成 18 年下期：60 人
 【月間最多登録者】 平成 21 年 9 月：27 人 19 年 4 月：26 人 18 年 11 月：25 人



V. まとめ

1. 全般

なら県民電子会議は、平成 18 年度上期にシステム構築し、21 年度下期で、約 4 年間の運用となり、多くの貴重なご意見をいただき、会議室のノーハウなど貴重な経験と実績を積むことができた。広範囲で、熱心に色々な角度から議論が行われ、奈良県の実状をある程度的確に捉えた議論、及び提案ができたのではないかと思います。大変意義ある論議が出来たことを投稿者の皆さんに感謝申し上げたい。県政について、幅広く議論ができ、県政に対する理解と関心を高めることが出来たことは、貴重な財産となって残っている。

電子会議室の仕組みも適切であった。4 つのテーマを 6 ヶ月ごとに変え、それぞれ、正、副のコーディネーターを配して会議室をリードする仕組みは理想的であった。関係する行政の職員も副コーディネーターとして、情報提供にご協力いただいたことは会議室を意義あるものに役立った。ただ、部門によって、その協力の温度差があったことは残念である。情報交流の場として、誰でも気軽に閲覧することができ、投稿に参加できる仕組みであり、この運営を高く評価し、多くの方々の理解と関心を高めることが出来たと思う。

2. 県への要望

4 年にわたる電子会議室を終えるにあたり、多くの方々から、継続できないものか、と惜しまれるご意見を多数いただいた。主なご意見を参考までに下記する。

今必要なのは、既存の概念に囚われことなく、人的ネットワークを上下左右に広げ互いに支え合う環境づくりではないでしょうか。ここの会議室で、「リアルとバーチャルの行き来」とか「カフェ」とかの言葉が出てきましたが、これを発展させるなかから、いくらでも事業が生まれる気がします。

この電子会議室もあと数分で実質クローズですが、リニューアルして、再度バーチャルでの井戸端会議に花が咲く日を楽しみにしています。皆様大変ありがとうございました。コーディネーター様、お疲れ様でした。しかし、この会議室は有意義でした。新しく再開されますことをご期待申し上げます。ありがとうございました。

電子会議室担当のコーディネーターから、電子会議室の終了のご連絡を頂きました。長い間、会議室の活性化にご尽力された皆様に経敬意を表したいと思います。またこの機会に、コーディネーターならびに行政のご担当に提案したいと思います。

1) この電子会議室は、昔で言えば民意を汲み取る目安箱のような役割もあり、今後、再検討の上、何らかの形で継続していただければと思います。コーディネーターの各位は、会議室のメンテに大変ご苦労されたと思いますが、会議室を活性化する最良の方法は、行政として、集まった意見に対して、何らかのコメントを返し、常に行政の諸施策立案に当たって、参考にしています！というメッセージを発信することだと思います。

2) このあたりは微妙な問題があることは理解できますが、少なくとも、関連の部署で目を通していただきますといったメッセージだけでも、意見を投稿する方々の励みになると思います。いずれにしても長い間お疲れ様でした！

貴重なご意見と励ましのお言葉を頂戴し、ありがとうございました。この電子会議室が閉じられてしまうのは大変残念な事です。皆様から頂戴した数々のご提言を今後も活かして頂けるよう、何らかの働きかけをしたいと考えております。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

この、なら県民会議室も本日をもって終了になるようで残念です。

いつの間にか毎日の日課になっていた会議室のご意見の拝見がなくなると、寂しいことです。これまでの会議室の経過を踏まえて、新しい形で継続されることをお願いします。

いままで、直接お世話くださった、コデネータさん、サブコーディネーターさんはじめ関係各位にはご苦労さまでした。この会議室のご縁でお知り合いになった皆さん、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

本当に貴重な投稿を多数お寄せ頂きありがとうございました。

またリアルに実際にお目にかかったの試食会や吉野でのものづくりへのご指導など多岐に亘ってこの会議室に貢献して下さい、厚くお礼申し上げます。

ぜひまた図書館ですずめさんやうまささんとも情報交換を致しましょう。

いつまでもお元気でご活躍をお祈り申し上げます。

電子会議室が終了するのは残念ですね。kurtさんのおっしゃるとおりだと思います。インターネットの普及で、sns やブログなども普及し、民意を汲み取る最良の手段だと思います。他府県に例のない奈良らしい取組として、継続できないか検討したいですね。

いよいよこの会議室も終了に当たって、貴重なご意見ご提言をありがとうございました。

リニューアルのご指摘を何とか奈良県にも提言して参りたいと思います。

いつも暖かくそして前向きなご投稿ご提言を頂戴しました事を深く感謝申し上げます。

本日をもって最後の投稿日となりました。

色々な投稿(お考え)を見、考えさせられる事が多くありました。日頃、又、投稿を通して感じていることを記します。

県は「何を考えているのか明確には開示していない」又「知らしむべからず、依らしむべし」これは「依らせることは楽にできても、知らせることは難しい」の意ですが、それを理由に県民に知らせるべきことを知らせていないのではないかと見えます。たとえ「県民だより」に書かれていても字が小さく読み難いのでは、知らせたことにはなりません。

遷都 1300 年祭関係でもわからないことだらけと言っても過言ではないような気がします。1/1 から始まり、12/31 に終わるのですが、公式ガイドブックにイベントのスケジュールを小出しにしている為、親戚や友人にこの 1 年に何回奈良に来て貰おうとか、それぞれの興味に合わせてそのスケジュールを作ることを知らせる事もできません。さらに祭りの後はどうなんでしょうか？20 年後、50 年後、100 年後さらに 1300 年後の奈良をどうするのかが見えません。これは知事の器量でもあるし、県民の自覚、郷土愛、県政への関心の問題であります。

この電子会議室は県民の一部の声ではありましたが、以後の県政にとって示唆の多いものであったのではないかと思います。一投稿者として良き機会を与えて下さった関係者の皆様に感謝いたしますと共に県民の声を聞く場を、機会を再度作って頂きたいと思います。下記のメールを拝受しましたが、今後一切閲覧できないとは誠に困った事です。現在まとめ作業を行っておりますがこのような貴重な提言が一切閲覧できないとは。せめてネットにONされていなくとも事務局のところで3年間のデータを保管され、必要な時には閲覧できるようなシステムにはなりませんか？

奈良県では奈良県立大学の村田 武一郎教授を中心に(奈良の将来ビジョンをつくるフォーラム実行委員長)このような奈良県への提言のフォーラム委員会が形成されております。私もその一員ですが、きっとこのような提言に関連する内容がこの電子会議室に多数含まれていると拝察します。何とか貴重な提言を生かす方法は無いものでしょうか？宜しく願い申し上げます。(平成22年3月28日)

投稿者の一人から電話を頂戴しました。突然この終了宣言では「やっぱりお役所仕事だなあ・・・と感じてしまいます・・・」と。そして、「せめて知事の似顔絵のご挨拶で始まっていたのでせめて同様に知事からの感謝のメッセージや最後の投稿への呼びかけをトップページで発信されたら・・・」とのご提言を頂戴しました。ぜひそのようは発信をお願いします。当「ものづくり産業を考える会議室」でもお礼のメッセージを発信したいと思います。宜しく願い申し上げます。(平成22年3月8日)

以上のように投稿者の方から、貴重なご意見をいただきました。終了するにしても、終わり方が重要だと思います。成果を次に活かさなければなりません。品質管理のPDCA サイクルを回すことが基本と考えるので、報告書をあげて終わりではなく、その成果を考察し、新たなステップに展開する義務があります。

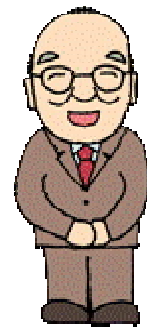
広報と広聴をリアルタイムに行えるのは、「電子会議室」が最適です。「なら県民電子会議室」をリニューアルし、常設の機関として再開することを望みます。

3. 補足

運営委員会の開催日：2ヶ月ごとに開催

コーディネーター会議：運営委員会のない隔月に開催

最後に、この電子会議室を盛り上げていただいた運営委員会、コーディネーターの皆様や、広報活動にご協力いただいた企業、団体、個人の方々、さらに、投稿していただいた方々に、心から感謝申し上げます。





第 21 回運営委員会
(最終回)

【添付資料 - 1】

「なら県民電子会議室」の総括（骨子） (平成 18 年 10 月 1 日～22 年 3 月 31 日)

1. 会議室（テーマ）

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| (1)【平成 18 年度下期】 | <コーディネーター> |
| 奈良の魅力の大発見! | (正：木谷延高 / 副：藤本文) |
| みんなで取り組む防災対策 | (正：小山正樹 / 副：木村新一) |
| (2)【平成 19 年度上期】 | |
| 自分たちでできるまちづくり | (正：藤野正文 / 副：事務局) |
| みんなで教育について語ろう | (正：三宅基之 / 副：事務局) |
| 奈良県の観光戦略について考えよう | (正：鉄田憲男 / 副：事務局) |
| (3)【平成 19 年度下期】 | |
| ストップ温暖化を考える | (正：遊津隆義 / 副：木村新一 / 前川治治) |
| 世界に開かれた奈良づくり | (正：大西 弘 / 副：木谷延高 / 多田充朗) |
| みんなで教育について語ろう | (正：三宅基之 / 副：坂田安男 / 寺村 聡) |
| (4)【平成 20 年度上期】 | |
| まほろばからストップ温暖化を考える | (正：坪内信行 / 副：遊津隆義 / 赤塚秀一) |
| 世界に開かれた奈良づくり | (正：遠藤英樹 / 副：多田充朗 / 木村新一) |
| うまいものがある食の風土づくり | (正：木村隆氏 / 副：柳沼壽徳 / 城戸振作) |
| 奈良に泊まってもらうには | (正：金田充史 / 副：坂田安男 / 事務局) |
| (5)【平成 20 年度下期】 | |
| 奈良の魅力の発信と観光客の誘致 | (正：金田充史 / 副：城戸振作 / 渡辺 孝) |
| 受診者の立場から医療資源を考える | (正：馬詰真一郎・吉岡敏子 / 副：木村新一) |
| 地域ぐるみで学校を支援しよう | (正：三宅基之 / 副：石川千明 / 事務局) |
| 平城遷都 1300 年祭を成功させよう | (正：中西久夫 / 副：松村賢一 / 事務局) |

(6)【平成 21 年度上期】

[ものづくり産業を考える](#)
[「もてなしの心」あふれる奈良](#)

(正：馬場英彦 / 副：渡辺孝)
(正：田部慶信・石川千明 /
副：玉置英隆(県職員) / 中西久夫)

[奈良の医療を良くするために](#)

(正：馬詰真一郎・吉岡敏子 /
副：伏見至 / 木村新一)

[ホテルが飛び交う河川の範囲を広げよう](#)

(正：松本清二 /
副：中川保(県職員) / 赤塚秀一)

(7)【平成 21 年度下期】

[広げようボランティア・NPO・地域活動の輪](#)

(正：早崎朝子 / 副：中尾理夏子 / 渡辺孝)

[林業の振興を考えよう](#)

(正：川口智史 / 副：石橋崇宏 / 木村真一)

[ものづくり産業を考える](#)

(正：馬場英彦 / 副：高塚恵一 / 中谷みさこ)

[奈良の未来を創る](#)

(正：伏見敦 / 副：城戸振作 / 中村武嗣)

2. なら県民電子会議室のデータ (2006/10/1-2010/3/31)

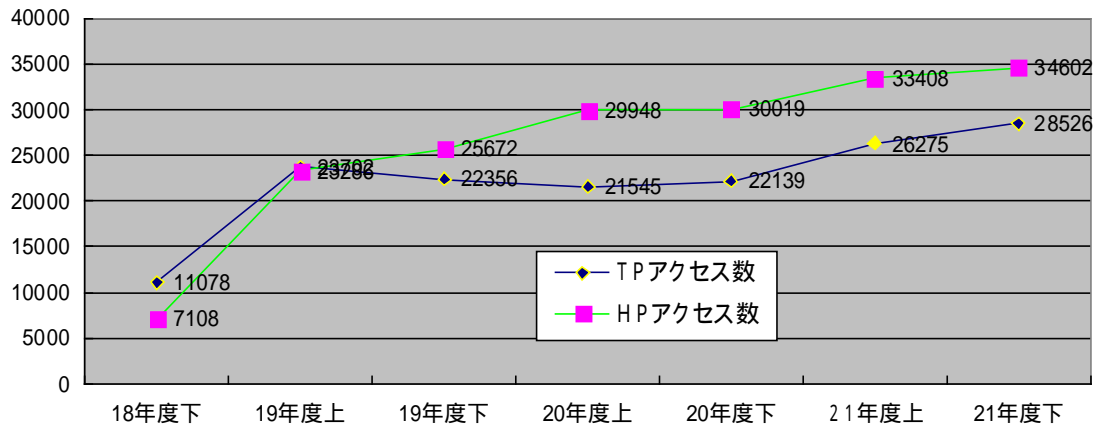
(1) 期別電子会議室のアクセス・投稿状況

	18 下	19 上	19 下	20 上	20 下	21 上	21 下	合計
投稿数	185	882	689	748	789	766	913	4972
投稿者	26	52	43	44	55	95	82	397
件 / 投稿者	7	16.9	15.9	17	14.3	8	11	
TP アクセス数	11078	23702	22356	21545	22139	26275	28526	154621
HP アクセス数	7108	23286	25672	29948	30019	33408	34602	184043
リクエスト成功件数			280891	356028	407485	440222	464173	1948799
登録者数	60	65	35	31	42	80	27	340

- ・登録者数：340 人
- ・投稿者数：232 人
- ・投稿数：4972 件

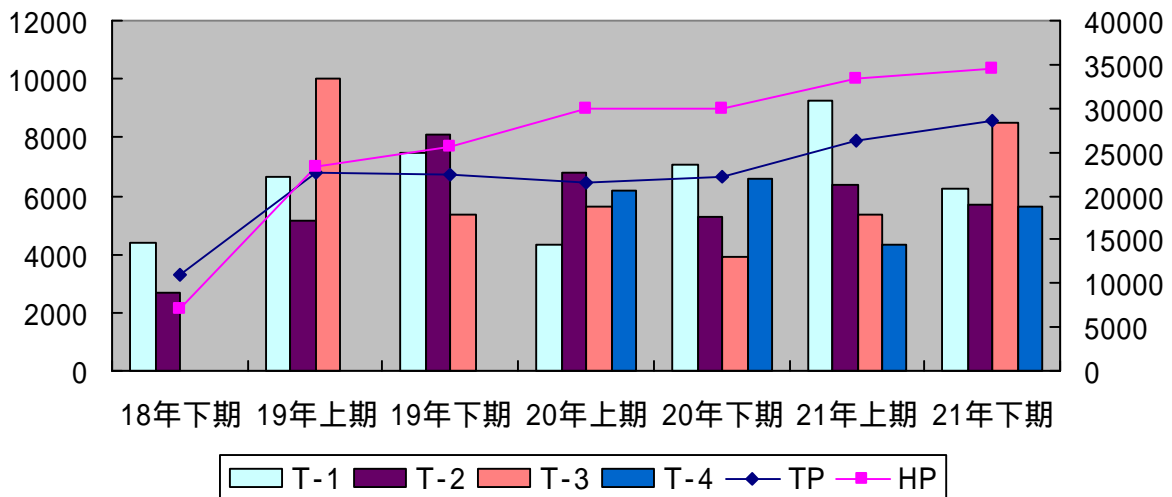
- ・上位 5 人の投稿数：1489 件 (30%)
- ・上位 10 人の投稿数：2248 件 (43.4%)

(2) TPアクセス / HPアクセス合計



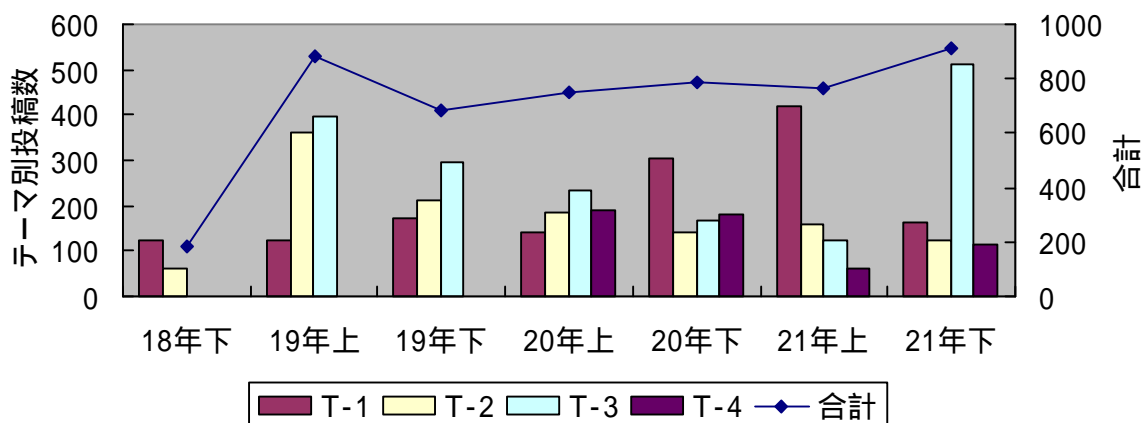
(3)

テーマ別アクセス数



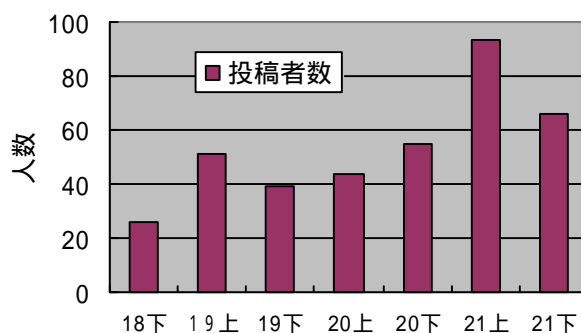
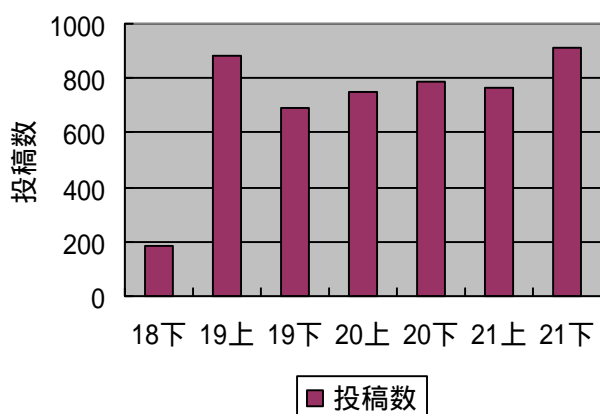
(4) 投稿数の推移

年月	T1	T2	T3	T4	合計
18年計	124	61			185
19年上計	124	360	398		882/1067
19年下期	180	212	297		689/1756
20年上期	141	184	233	190	748/2504
20年下期	264	123	167	152	789/3293
21年上期	419	159	125	63	766/4059
21年下期	164	125	510	114	913/4972

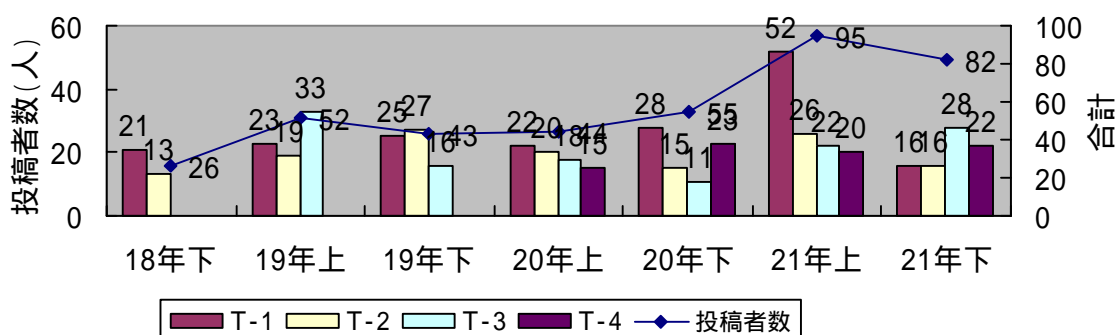


(5) 期別の投稿数

(6) 期別の投稿者数

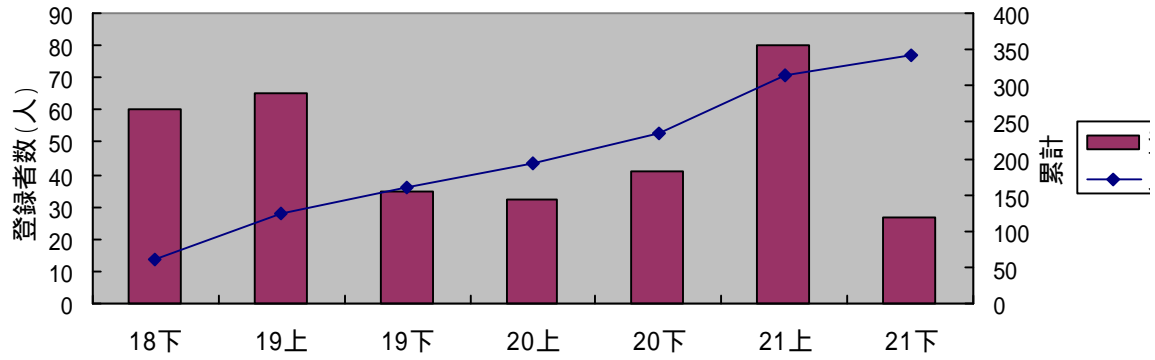


(7) 期単位でのテーマ別投稿者数動向

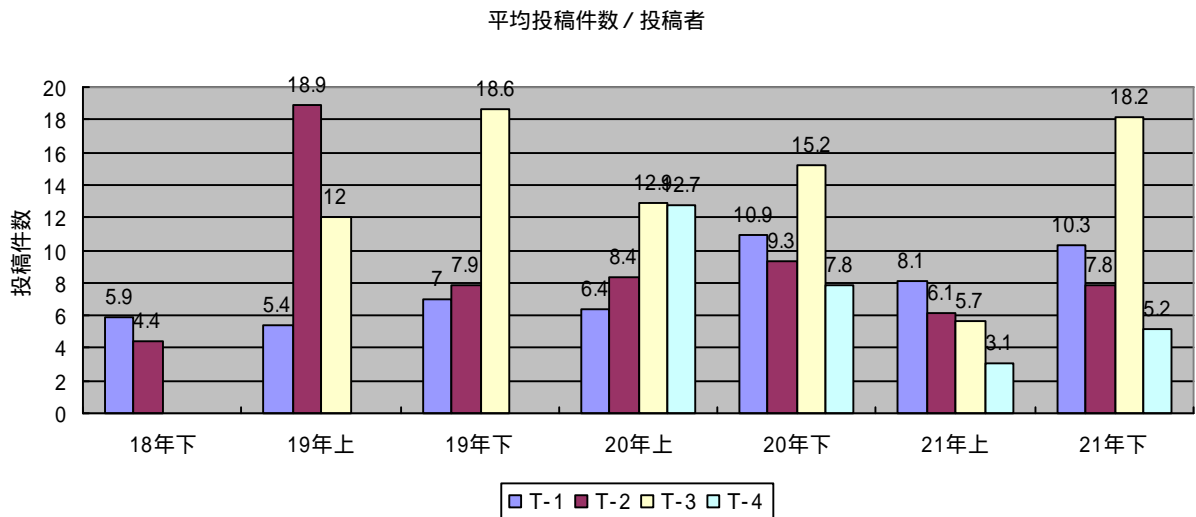


(8) 登録者の推移

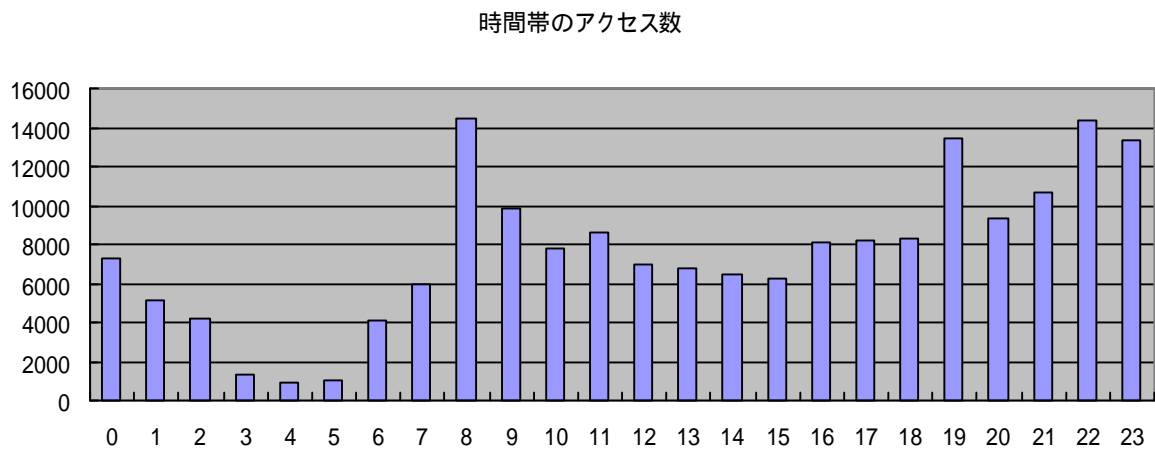
	18下	19上	19下	20上	20下	21上	21下	累計
登録数	60	65	35	32	41	80	27	340



(9) 期別の 1 人当り平均投稿数

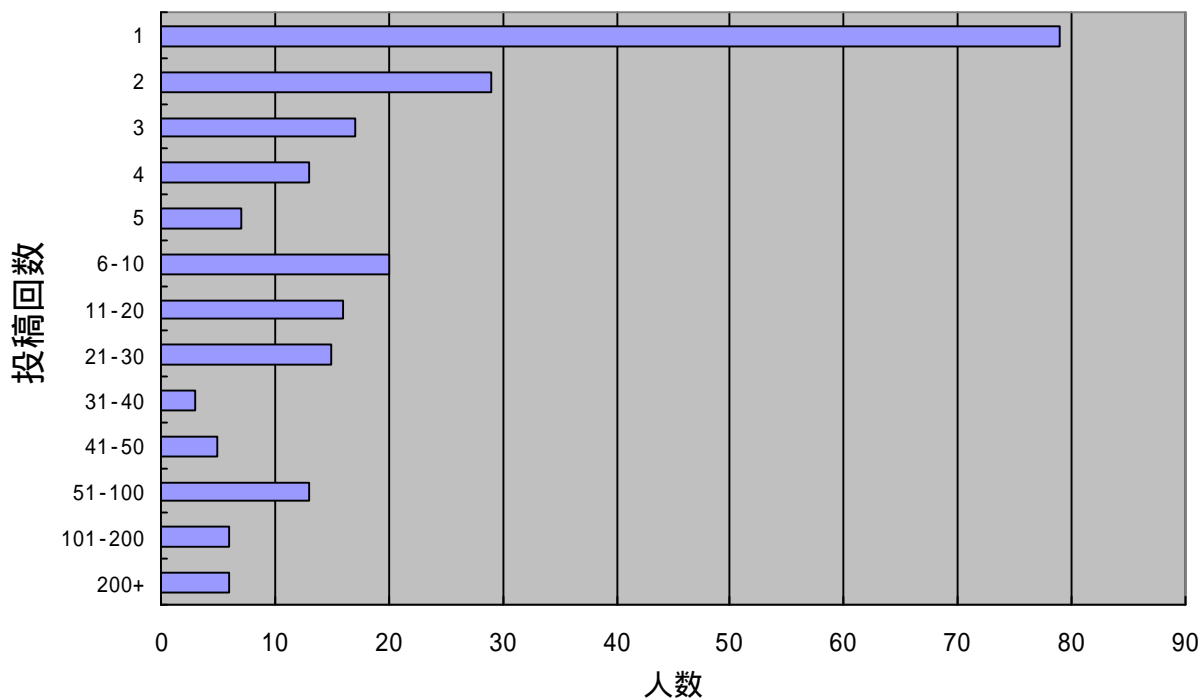


(1 0) 時間帯におけるアクセス (平成 18 年 11 月 - 21 年 3 月)



(1 1) 投稿回数

回数	1回	2回	3回	4回	5回	6 - 10	11 - 20	21 - 30	31 - 40	41 - 50	51 - 100	101 - 200	200+
人数	79	29	17	13	7	20	16	15	3	5	13	6	6
%	34	12.5	7.3	5.6	3	8.6	6.9	6.5	1.3	2.2	5.6	2.6	2.6



(1 2) 投稿者の順位

順位	投稿回数	ハンドル名	順位	投稿回数	ハンドル名
1	355	支援隊	10	129	tetsuda
2	317	miyake	11	118	Anne.m.m
3	296	すずめ	12	112	一心太助
4	262	金やん	13	97	こんべい
5	259	ミッチー	14	93	eitex
6	210	Wiskij	15	90	bazbird
7	189	ピタゴラスイッチ			
8	133	三河人			
		気くぱりくん			

【添付資料 - 2】

21 年度下期運営委員

●委員長

奥家孝彦 奈良県国民健康保険団体連合会
常務理事、e-AAC 理事長

●副委員長

小山正樹 奈良先端科学技術大学院大学
名誉教授、e-AAC 副理事長

●委員

・産業界・大学等（アイウエオ順）

石川千明 いこま育児ネット代表
石橋崇宏 奈良県農林部林政課企画係
遠藤英樹 奈良県立大学 地域創造学部教授
大矢智子 近鉄ケーブルテレビネットワーク
金田充史 魚佐旅館 専務取締役
川口智史 森林インストラクター
城戸振作 e-AAC 会員
木村新一 タイヤ製菓株式会社、e-AAC 理事
阪本安平 南都経済センター 常務取締役
杉島靖郎 飯田通商（株）営業技術部長
e-AAC 理事
高津公彦 富士通株式会社 奈良支店長
高塚恵一 奈良県商工労働部産業支援課
鉄田憲男 「奈良のうまいもの」づくり部会
中谷
みさこ NPO 法人チャレンジ企業支援隊
中西久夫 奈良 2010 年塾 3 期生
e-AAC 会員
中尾
理夏子 県協働推進課係長
中村武嗣 道馬軒写真館館主
早崎朝子 社会福祉法人、県社会福祉協議会
馬場英彦 NPO 法人チャレンジ企業支援隊
理事
藤野正文 社団法人奈良まちづくりセンター
副理事長

●委員

・産業界・大学等（アイウエオ順）

伏見 敦 NPO 法人奈良シニア IT 振興会
理事長
堀真寿美 帝塚山大学
NPO 法人 CCC - TIES 事務局
松村洋子 奈良 SGG クラブ副会長
三宅基之 （有）コミュニネット取締役社長
山田順一 N T T AT（株）大阪支店長
e-AAC 理事
遊津隆義 NPO 法人奈良ストップ温暖化の
会
理事長
渡辺 孝 e-AAC 会員
・行政
西川良秀 奈良県 広報広聴課
荒川隆行 奈良県 広報広聴課
・事務局
多田充朗 e-AAC 理事
寺村 聡 e-AAC 理事
坂田安男 e-AAC 理事
柳沼壽徳 e-AAC 理事
木谷延高 e-AAC 理事
前川治治 e-AAC 理事

【添付資料 - 3】

県政について県民同士で意見交換！

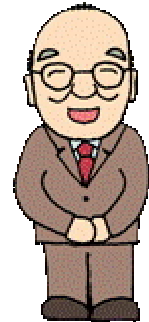
なら 県民電子会議室



投稿者募集！みなさんの参加をお待ちしています。

<http://www.kenminconf.pref.nara.jp/>

閲覧は自由ですので、気軽に閲覧してみてください。
上記サイトに、登録して、ハンドル・ネームで投稿できます。



平成21 年度下期 意見交換テーマ

- ・テーマ : 広げようボランティア・NPO・地域活動の輪
- 多様な協働による地域づくり -
- ・テーマ : 林業の振興を考えよう
- 森林の整備と保全について -
- ・テーマ : ものづくり産業を考える
- 奈良に興したいこんな産業
- ・テーマ : 奈良の未来を創る
- 平城遷都 1300 年祭を成功させ、奈良の魅力を語る -

奈良県を良くしたい、自分の住んでいる地域を良くしたいと思ったことはありませんか。

アイデアを気軽に出し合える場があればいいと思ったことはありませんか。

皆さんが持っている、そんな気持ちを県政に反映したいと思いませんか。

運営主体

なら県民電子会議室運営委員会
(NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ)

問い合わせ先

奈良県総務部知事公室広報広聴課

Tel:0742-27-8327

NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ
Tel:0742-33-7863

(<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/>),

e-mail:e-aac@nifty.com

